

Oracle® Enterprise Data Quality for Product Data

PIM Connector ユーザーズ・ガイド

リリース 5.6.2

部品番号 : B66252-01

2011 年 11 月

Enterprise DQ for Product PIM Connector ユーザーズ・ガイド, リリース 5.6.2

部品番号 : B66252-01

Copyright © 2001, 2011 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle and Java are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Xeon are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Opteron, the AMD logo, and the AMD Opteron logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information on content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services.

目次

| | |
|---------------------------------------------------|------|
| はじめに | iii |
| ドキュメントのアクセシビリティについて | iv |
| 関連ドキュメント | iv |
| 表記規則 | v |
| 1 概要 | |
| Oracle Product Data Hub R12 との統合 | 1-2 |
| R12 PIM Connector の構成 | 1-2 |
| 製品階層としての ICC 構造 | 1-2 |
| ICC とセマンティック・モデルの関係 | 1-2 |
| 項目搭載プロセスのクレンジングと照合 | 1-3 |
| はじめに | 1-4 |
| 2 初期データ・レンズの作成 | |
| 1. プロファイル・オプションの設定 | 2-3 |
| 2. 表示形式の設定 | 2-8 |
| 3. PIM_Connector データ接続の作成 | 2-13 |
| 4. Excel からの ICC インポートの処理 | 2-16 |
| 5. Excel で AutoBuild Wizard を使用してデータ・レンズを作成 | 2-18 |
| データ・レンズ作成時の値セットの使用 | 2-22 |
| 6. データ・レンズのレビューと調整 | 2-24 |
| データ・レンズの値セットの調整 | 2-25 |
| 7. 標準化および照合ルールの調整 | 2-26 |
| 8. サンプル・データでのデータ・レンズのテストとベース・ファイルの作成 | 2-27 |
| 9. セマンティック・キー1 キャッシュ | 2-28 |
| 3 R12 PIM Connector バッチのクレンジングと照合 | |
| R12 PIM Connector バッチの作成 | 3-2 |
| R12 PIM Connector 外部データ・ソース・バッチの作成 | 3-2 |
| R12 PIM Connector 生成プル・データ・ソース・バッチの作成 | 3-6 |
| 「Items for Enrichment」のレビュー | 3-10 |
| バッチ内での重複のレビュー | 3-11 |
| 「Match Against PIM」のレビュー | 3-13 |
| 「Exceptions」のレビュー | 3-14 |

| | |
|-----------------------------|------|
| 「Ready for Load」のレビュー | 3-14 |
| 「Release Batch」のレビュー | 3-16 |

A クライアント・ソフトウェアのインストール

B R12 PIM Connector ユーザーの作成

はじめに

このガイドでは、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data R12 Product Information Management システムのコアとなるプロセス・ステップと機能について説明します。

Oracle Product Information Management Data Hub を Oracle Enterprise Data Quality によって機能拡張することにより、マスター製品データの精度、完全性、統合性が向上します。

すべての機能を理解するには、このユーザーズ・ガイドとともに、iv ページの「[関連ドキュメント](#)」に掲載されている Oracle Enterprise Data Quality for Product Data の各ドキュメントも併せてお読みください。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support にアクセスして電子サポートを受けることができます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> または <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> (聴覚障害者向け) を参照してください。

関連ドキュメント

詳細は、ドキュメント・セットに含まれる次のドキュメントを参照してください。

- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data R12 PIM Connector インストレーション・ガイドには、Enterprise DQ for Product R12 PIM Connector のインストールと構成について記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data R12 PIM Connector API インタフェース・ガイドには、R12 PIM Connector API のインストールと使用に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server インストレーション・ガイドには、Oracle DataLens Server のインストール手順の詳細が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server 管理者ガイドには、Oracle DataLens Server のインストールと管理に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data COM インタフェース・ガイドには、Oracle DataLens Server の COM API のインストールと使用に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Java インタフェース・ガイドには、Oracle DataLens Server の Java API のインストールと使用に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Application Studio リファレンス・ガイドには、Data Service Applications (DSA) の作成と保守に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data AutoBuild リファレンス・ガイドには、既存の製品情報およびデータ・レンズ・ナレッジに基づいた初期データ・レンズの作成に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Knowledge Studio リファレンス・ガイドには、データ・レンズの作成と保守に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Governance Studio リファレンス・ガイドには、Data Service Applications (DSA) の実行と出力データの分析に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data 用語集には、Enterprise DQ for Product テクノロジーで一般的に使用する用語の定義が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Services for Excel リファレンス・ガイドには、Microsoft Excel ワークシートに含まれるデータに基づいた DSA の作成に関する情報が記載されています。
- Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Task Manager リファレンス・ガイドには、Task Manager または Governance Studio アプリケーションで作成されたタスクの管理に関する情報が記載されています。

このドキュメントおよびすべての関連ドキュメントの最新版は、次に示す Oracle Enterprise Data Quality for Product Data ドキュメントの Web サイトから入手できます。

http://download.oracle.com/docs/cd/E20593_01/index.htm

表記規則

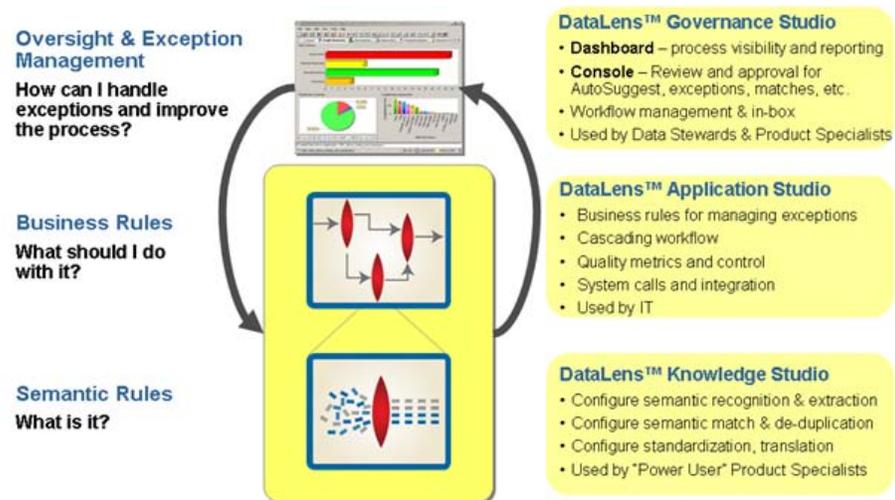
このマニュアルでは、次の表記規則を使用します。

| 規則 | 意味 |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 太字 | 太字は、操作に関連する Graphical User Interface 要素、または本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。 |
| イタリック体 | イタリックは、マニュアルのタイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。 |
| 固定幅フォント | 固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、入力するテキスト、ファイル、ディレクトリまたはパス名を示します。 |
| 固定幅フォント | 太字の固定幅フォントは、入力するコマンドまたはテキストを示します。 |

概要

Oracle DataLens Server は、様々なソースおよびシステムの製品データを標準化、照合、補完および修正する業界最先端の DataLens™ テクノロジーを基に構築されています。DataLens の中核テクノロジーには、製品データに特有の変動性の高さに対応するために、一から設計された特許取得済セマンティック・テクノロジーが使用されています。

Oracle Enterprise Data Quality for Product Data (以前の Oracle Product Data Quality) では、DataLens の中核テクノロジー・モジュールである Governance Studio、Knowledge Studio および Application Studio が使用されます。次の図は、これらのモジュールのプロセス・フローを示しています。



大部分の Oracle R12 Product Information Management (PIM) システムで Oracle E-Business Suite (EBS) とともにインストールされる Vision Demo Database は、共通のデータ・セットにアクセスするための手段になります。これをサンプルとして使用し、Oracle DataLens Server の設定と構成を検証することができます。これは、「Passives」の項目クラスにある「Capacitors」の ICC 名を使用します。

Enterprise DQ for Product (EDQP) R12 PIM Connector には、適切なシステム構成のためのテストおよび確認が可能な一連のアプリケーション・コンポーネントが付属しています。

既存の Product Data Hub 上の一連の情報を迅速に活用するために Enterprise DQ for Product (EDQP) AutoBuild が使用され、EBS の中で R12 PIM Connector を使用するための Semantic Model 構築には Enterprise DQ for Product スマート用語集が使用されます。この R12 PIM Connector Semantic Model は、EDQP ではデータ・レンズと呼ばれ、このマニュアルでもこの用語を使用します。

Oracle Product Data Hub R12 との統合

EDQP ソリューションを PIM Data Hub (PIMDH) R12 に統合すると、どんなソース・システムまたはカタログから取得される製品データも分類、標準化、照合、管理、検証、修正、目的変更が可能です。インタフェース機能とプロシージャの堅牢なセットに加え、すぐに使用できる統合テンプレートが用意されているので、カスタマイズしたプロセス・フローの作成に利用できます。これらのプロセス・フローによって、1つ以上のレガシー・システムからの外部データが PIM ステージング表に統合され、外部システムへのインタフェースの作成、カタログ全体のインポート、カタログへの更新などが可能になります。

用意されているテンプレートを利用すれば、次の機能を簡単に実行できます。

- PIM メタデータ同期テンプレート：
 - ICC メタデータ、属性、関連付けられた有効な値からセマンティック・モデルを自動的に生成。
 - 代替カタログの同期をサポート。
- セマンティック・キー・キャッシュを作成して重複の防止と相互参照に利用。
- PIM 生成バッチを作成し、PIM の既存の項目をクレンジングおよび再検証。
- 自動的にバッチを作成することによって、外部データをインポートし PIM ステージング領域にロード。
- クレンジングおよび照合プロセスを実行し、外部データまたは PIMDH バッチを除去。

R12 PIM Connector の構成

「Import Workbench」プロセスを使用してシステムにインポートされるデータの全バッチに対するチェックの一部またはすべてを実行するように構成することができます。事前定義済の統合テンプレートが用意されており、プロジェクト要件に応じてパーソナライズができます。テンプレートを使用することで、グローバル属性の検証や、EDQP システムを使用した項目搭載プロセスに対するセマンティック・ユーザー定義属性（「Form」、「Fit」または「Function」）の移入などの操作が可能です。

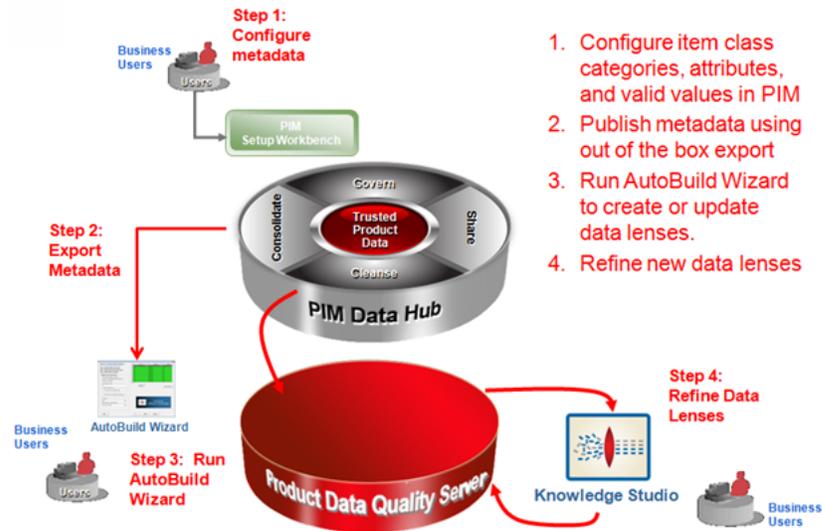
製品階層としての ICC 構造

最も有効にメタデータを同期するには、PIM の ICC 構造を製品階層（たとえば、カテゴリ・ファミリー、カテゴリ・グループ、カテゴリ明細、カテゴリ）として設定する必要があります。製品階層には複数のレベルを含めることができ、各レベルは一連の定義属性によって識別されます。レベルは、重複せず、一意である必要があります。各 PIM 項目は、1つの ICC に対応します。リーフ・ノード・レベルではカテゴリ固有のセマンティック属性を定義する必要があり、それより高次の ICC レベルではより一般的なカテゴリ属性を定義できます。

ICC とセマンティック・モデルの関係

ICC 構造と、セマンティック・モデルから生成されるデータ・レンズとの間には 1 対 1 の関係があります。製品階層が ICC 構造なので、どの項目も 1 つだけのセマンティック・モデルを持ち、データを標準化するプロセスが自動化され、精度と再現性が確保されます。1つの PIM システムに特定カテゴリの複数の ICC を含めようとした場合、特定の項目に対して複数のセマンティック・モデルと、複数の標準化ルールが存在する可能性があります。これは、ICC 構造とセマンティック・モデル間の 1 対 1 関係を維持することで確実に回避することができるため、製品階層を使用することが一般的です。

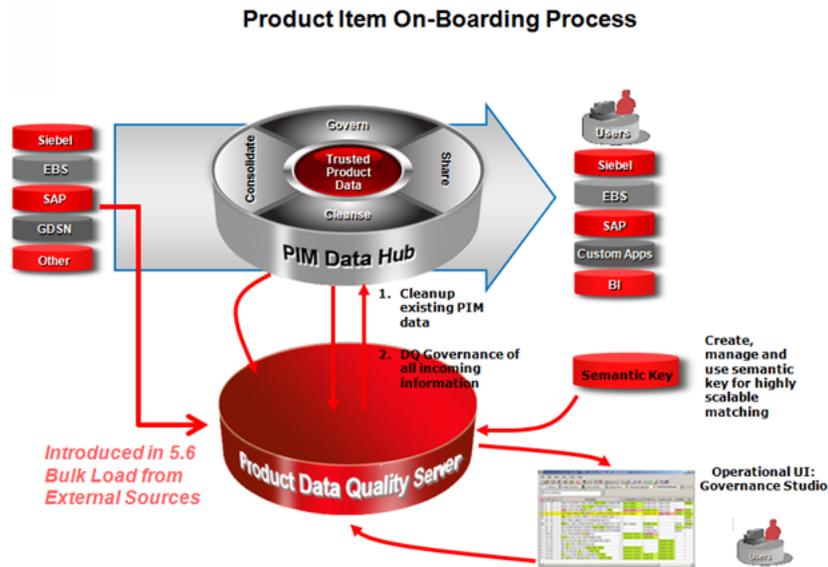
Metadata Synchronization Process



項目搭載プロセスのクレンジングと照合

EDQ for Product Data ソリューションと PIM Data Hub R12 システムを統合すると、製品データを PIM に「Import Workbench」を使用して取り込むたびに、データ品質機能の重要なセットが追加されます。統合プロセスのセットが事前に組み込まれているので、次のような各種データ品質チェックの自動化が可能になります。

- 適切な ICC にデータを自動的に分類
- ICC と属性マッピングを通じて代替カタログ・カテゴリに自動的に割当て
- カテゴリ固有属性を自動的に抽出、検証および標準化
- プライマリおよびグローバルの属性を自動的に検証および標準化
- カテゴリ固有属性から複数の摘要を自動的に生成および標準化
- 着信データの重複識別およびマージ
- 生成表の既存の項目に対する新規項目の重複防止および相互参照
- AutoSuggest 機能を利用した、標準に達しない項目の修正手順
- 例外の識別と手順



はじめに

R12 PIM Connector のすべての機能を使用するには、R12 PIM Connector を使用する前に次の操作を完了していることを確認してください。

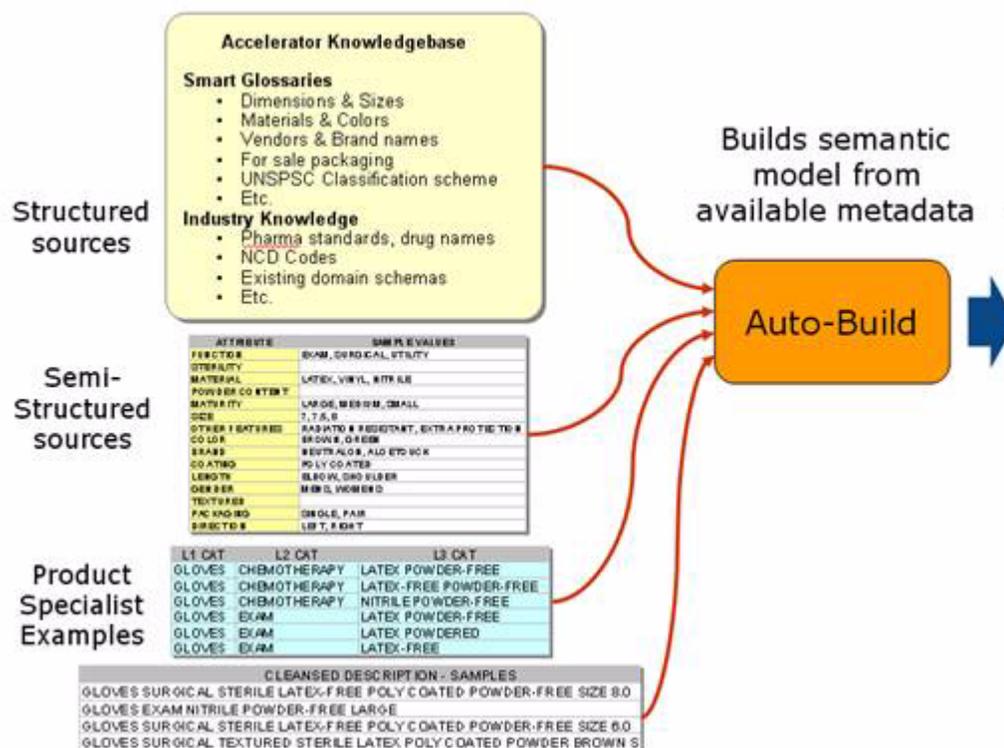
- EBS サーバーのインストール (最新のパッチ・セットを含む)。
R12 PIM Connector 5.6.2 のインストールと構成。
インストールの手順は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data PIM Connector インプリメンテーション・ガイドを参照してください。
- EDQP 5.6.2 Oracle DataLens Server のインストールと構成。手順は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server インストール・ガイドを参照してください。
- EDQP 5.6.2 クライアント・ソフトウェアのインストール。インストールの手順は、A-1 ページの「クライアント・ソフトウェアのインストール」を参照してください。
- EDQP Services for Excel 5.6.2 のインストールと構成。手順は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Services for Excel リファレンス・ガイドを参照してください。
- 使用される EBS ユーザーの特定。通常これは、plmngmr または pimngmr です。R12 PIM Connector ロールを持つユーザーを作成する手順は、B-1 ページの「R12 PIM Connector ユーザーの作成」を参照してください。

初期データ・レンズの作成

AutoBuild は、使用可能な製品メタデータを調べてデータ・レンズを構築します。十分な情報が指定されれば、AutoBuild は次の処理を実行できます。

1. 必須属性、スコアリング属性およびオプション属性が完全にそろった品目定義階層の構築
2. 豊富な用語およびフレーズ認識ルールの構築
3. 分類ルールの初期セットの提供

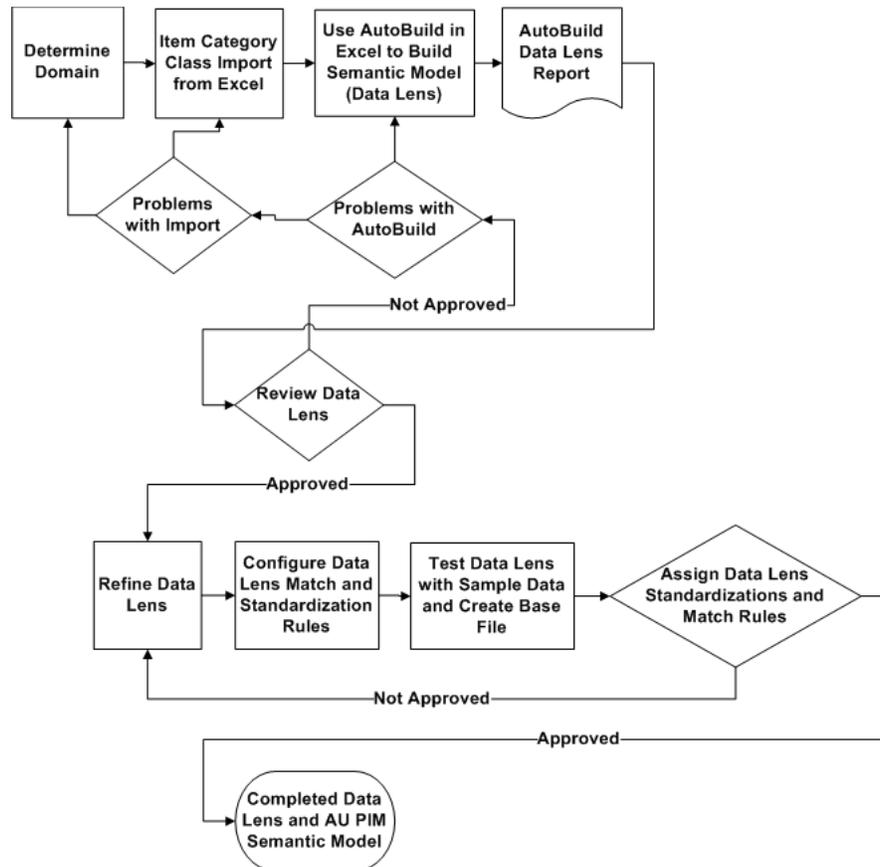
AutoBuild は、ウィザード形式のグラフィカル・インタフェースで最初から最後までのプロセスをガイドします。



AutoBuild を使用して初期データ・レンズを作成すると、Oracle Item Class 表から表示形式メタデータが抽出され、Product Data Hub Production 表からサンプル・データが取得されます。Create Semantic Model Data Service Application (DSA) は、EDQP Services for Excel からジョブとして実行され、パラメータとして ICC 名を必要とします。Create Semantic Model DSA は、DLS ユーザーのシステム・プロファイル表で構成されている名前に一致する ICC 文字列に関連付けられた表示形式名を検索します。デフォルトの表示形式名は「SemanticModel」ですが、デフォルトの表示形式名として任意の名前を構成できます。このオプションの設定の詳細は、

Oracle Enterprise Data Quality for Product Data PIM Connector インプリメンテーション・ガイドを参照してください。

Create Semantic Model DSA と、対応するメタデータ・プル・プロセスは、ICC とその子すべての属性を抽出します。親カタログ名も抽出されます。表示形式には、Excel のワークシートにどの属性を挿入するかを指定します。項目クラス階層のどのセクションを抽出するかを ICC で決定し、どの属性メタデータを抽出するかを表示形式で決定して、初期データ・レンズを作成します。



ICC の属性（表示形式で指定される）が抽出されると、EDQP AutoBuild を使用して、指定した ICC の内部セマンティック・モデルを表す新しいデータ・レンズが EBS PIM に作成されます。EBS PIM にロードされるデータの品質を改善するために、ルール、標準化、分類が追加されデータ・レンズが更新されます。

1. プロファイル・オプションの設定

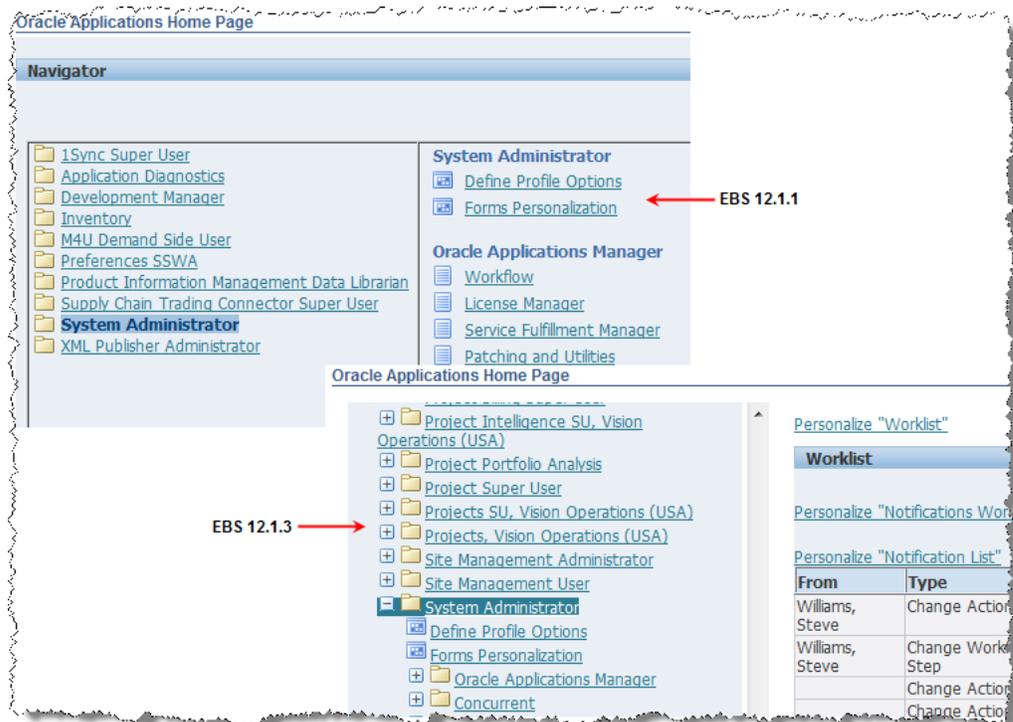
次のように、R12 PIM Connector で使用するユーザー・プロファイル・オプションを設定する必要があります。

1. EBS Web サイトにアクセスします。

http://rws3210039.us.oracle.com:8095/OA_HTML/AppsLogin



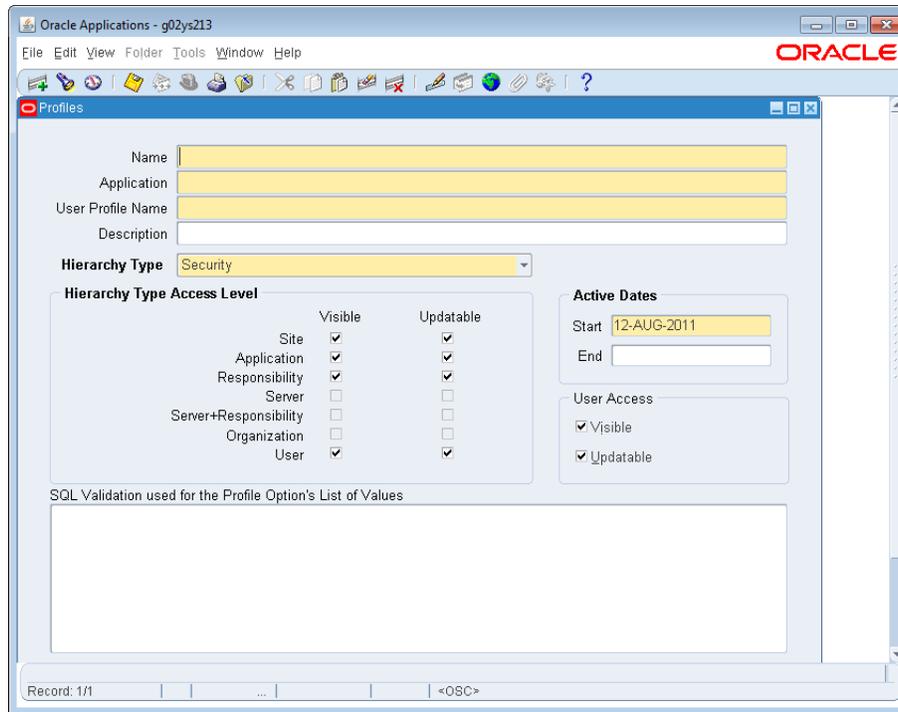
2. システム管理者の権限を持つユーザーとして EBS にログインします。
「Oracle Applications Home Page」が表示されます。
3. 「System Administrator」をクリックします。



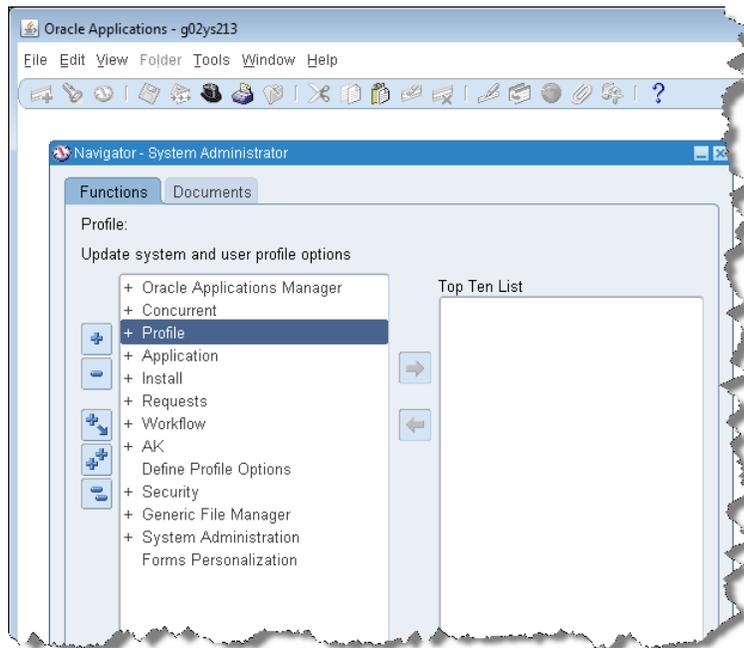
4. 「Define Profile Options」をクリックします。

Oracle Forms アプリケーションが起動します。デジタル署名の検証を求められたら「Run」を実行し、Oracle Applications のインストールと実行を許可します。

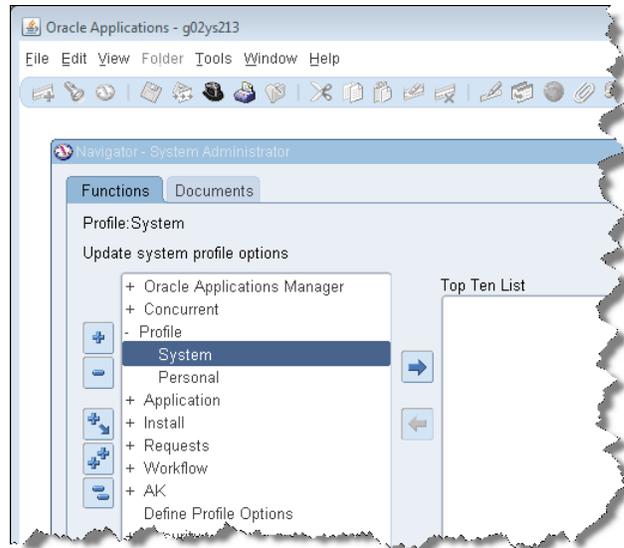
1. プロファイル・オプションの設定



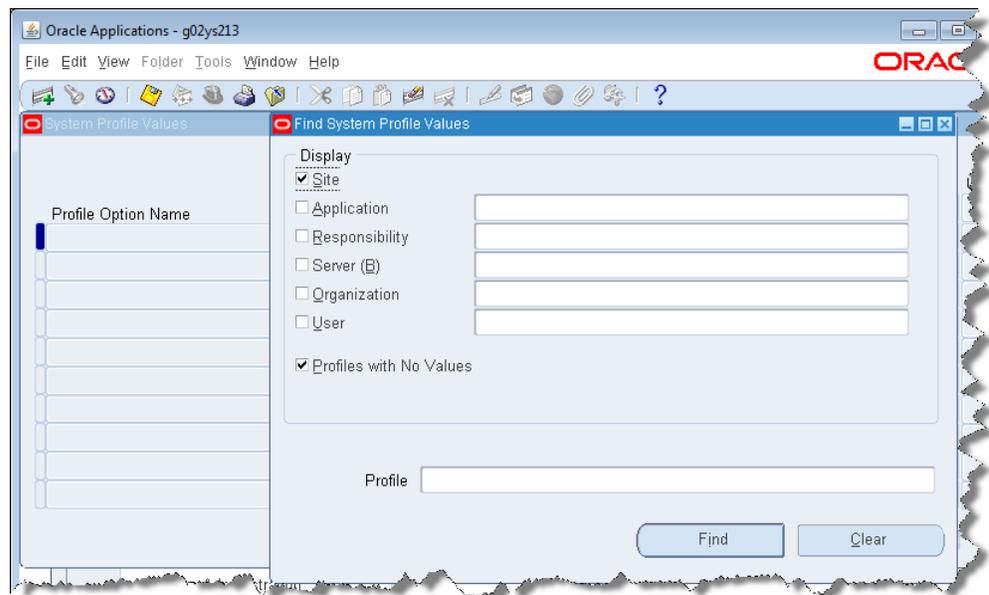
5. 「Profiles」 ダイアログをクローズします。



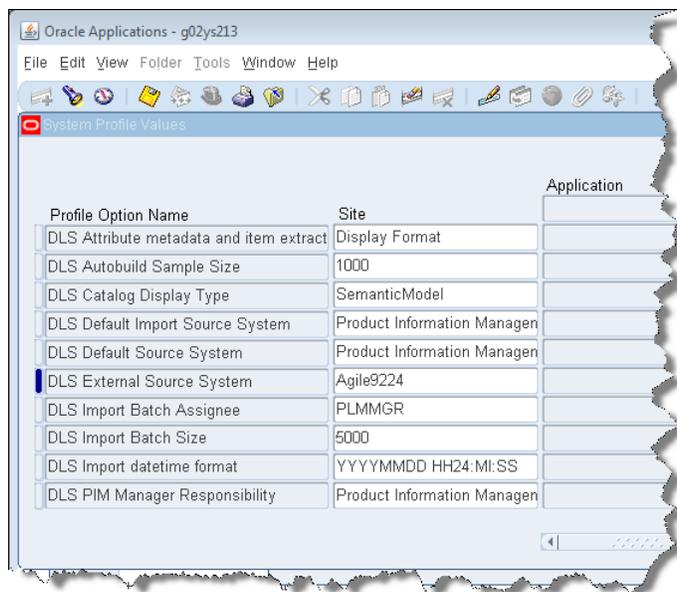
6. 「Profile」 をダブルクリックして展開します。



7. 「System」をダブルクリックします。



8. 「Profile」フィールドにDLS%と入力して「Find」をクリックし、更新が必要なプロファイル・オプションを検索します。



適切な権限を持つ既存のユーザー、たとえば PIMMGR または PLMMGR を使用する必要があります。PLMMGR は必要なロールを持っているので、追加の構成が不要です。Vision データベース・ユーザーの PIMMGR も使用できます。PLMMGR ユーザーがない場合は、B-1 ページの「R12 PIM Connector ユーザーの作成」の説明に従って DLSUSER および DLSMANAGER ユーザーを作成します。

これらのプロファイル・オプションの 2 つで Product Information Manager Data Librarian が使用されます。

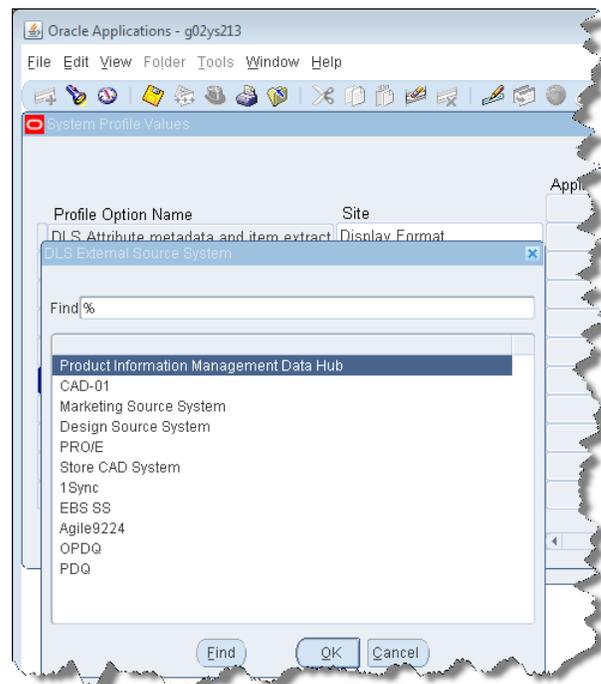
これらのデフォルト値は、R12 PIM Connector のインストール時に設定されます。

システム・プロファイル・オプションは次のとおりです。

| プロファイル・オプション | 説明 |
|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DLS Attribute Metadata & item extract | このリリースでは使用しません。メタデータ抽出の方法を切り替えるスイッチです。値は次の 2 つのいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Display Format: 元の表示形式を使用して、抽出するメタデータをリストします。 ■ DLS Table: DLS_EXTRACT_ATTRIBUTE という DLS スキーマの新しい表を使用して、注釈するメタデータをリストします。 |
| DLS Autobuild Sample Size | 各 ICC のメタデータ・プルでプルされた行の数を示します。 |
| DLS Catalog Display Type | カタログ・レベルで属性に設定されている表示形式タイプを照合します。これは、EDQP で処理される項目の形状、適応および機能属性のサブセットを定義する際に使用されます。 |
| DLS Default Source System | 新しいバッチが作成されるソース・システムの名前。「 Product Information Management Data Hub 」に設定されます。たとえば、生成データをクレンジングするために使用する生成プルの場合、すべての情報をプルし、ステージング表またはインタフェース表に配置した上で、このソースに対するバッチを作成します。 |
| DLS External Source System | 外部バッチ・ロードに含まれていない場合の、デフォルトの外部システム・ソースの名前。既存の名前をリストから 1 つ選択する必要があります。この例では「 Agile9224 」と表示されています。 |

| プロファイル・オプション | 説明 |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DLS Import Batch Assignee | バッチが作成されたら、バッチをこのユーザーに割り当てます。このフィールドを空白のままにすると、Production API によって PIM Manager ユーザーに割り当てられます。たとえば「PLMMGR」または「PIMMGR」を入力します。このパラメータは、「Import Batch Assignee」を指定せずに API がコールされたときの代用値です。 |
| DLS Import Batch Size | 大量のレコードを含むバッチを作成するときのチャンク・サイズです。たとえば、PLM High Tech など大量のデータ・セットのバッチを作成する場合に使用します。これらの個別のバッチが DLS ジョブ ID で 1 つにまとめられます。このパラメータは、DLS API コールで渡されなかったときの代用値です。 |
| DLS Import datetime format | ユーザー定義の属性データをインポートするとき、データに必要な日付書式を保持します。 |
| DLS PIM Manager Responsibility | ユーザーと職責を組み合わせ、API 実行のコンテキストを設定します。この情報は、EDQP Governance Studio が生成プルを実行する必要があるときに使用されます。この情報は、Oracle API が属性情報をプルするために渡されます。たとえば、Product Information Management Data Librarian などです。 |
| DLS PIM Manager User | バッチを作成する権限を持つユーザー。このパラメータは、「PIM Manager User」を指定せずに API がコールされたときの代用値です。たとえば「PLMMGR」または「PIMMGR」を入力します。 |
| DLS import date format | デフォルトの日付書式。たとえば「YYYYMMDD」を入力します。 |

9. 「DLS External Source System」フィールドをクリックし、参照ボタンをクリックして対応する「DLS External Source Systems」のリストを有効にします。



10. 使用するデフォルトの外部ソース・システムとして値を 1 つ選択し、「OK」をクリックします。この名前は EBS PIM システムに存在する必要があります。
11. Oracle Applications を終了します。
フォームに対する変更が保存されたという情報メッセージが表示されます。
12. 「OK」をクリックして、ダイアログをクローズします。

2. 表示形式の設定

レンズを作成する前に、ターゲットの ICC を決定する必要があります。これには、Oracle ICC 名を作成する必要があります。

データ・レンズ作成のプロセスには、各 ICC 名が正しく設定され、適切に命名されている必要があります。データ・レンズは、品目カタログ階層に関連付けられます。Vision Operations ICC に配置される「Capacitor」階層を次に示します。

- PLM High Tech
 - Electronic Components
 - Passives
 - Capacitors

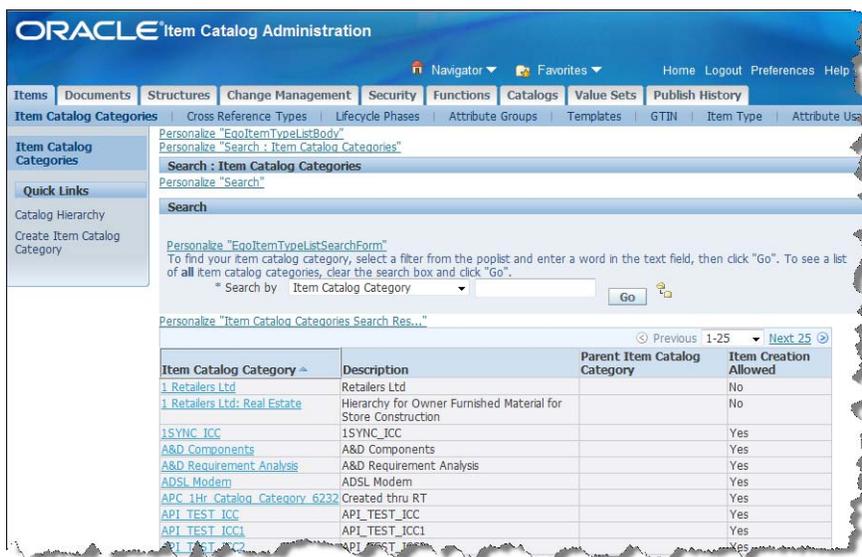
表示形式の設定：

1. EBS Web サイトにアクセスします。

http://rws3210039.us.oracle.com:8095/OA_HTML/AppsLogin

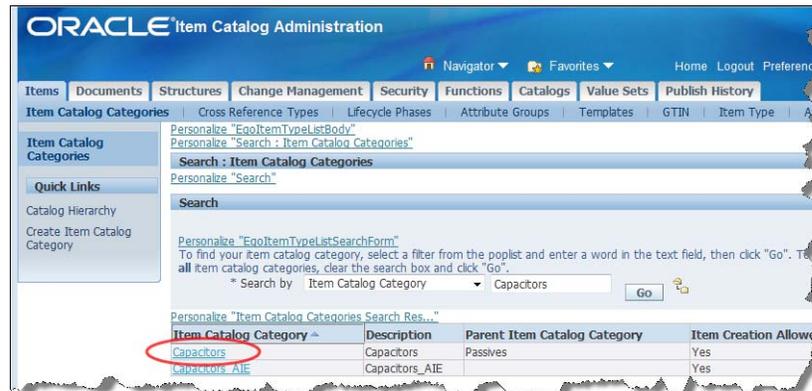


2. EBS にログインします。
「Oracle Applications Home Page」が表示されます。
3. EBS 12.1.3 の場合は、「Favorites」をクリックしてメニューを表示します。
4. 「Favorites」リストで「Setup Workbench」をクリックします。

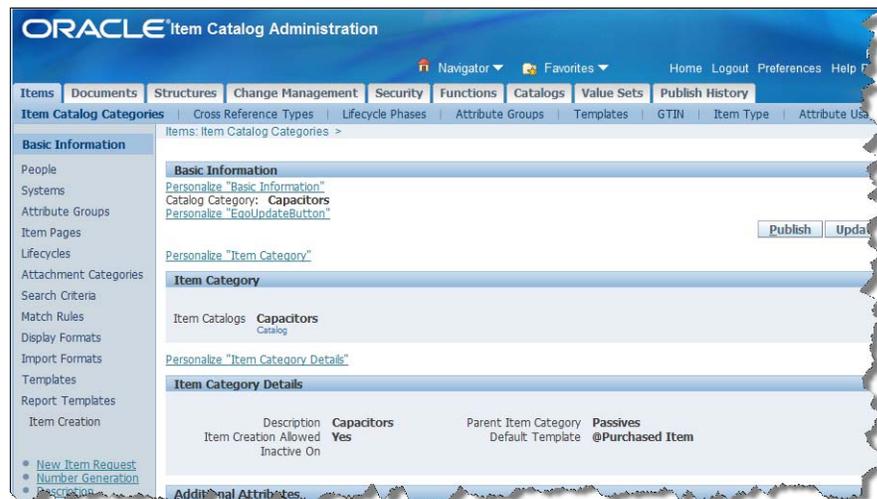


5. 「Item Catalog Category」で、セマンティック・モデルを作成するカテゴリを検索するために検索条件を入力し、「Go」をクリックします。

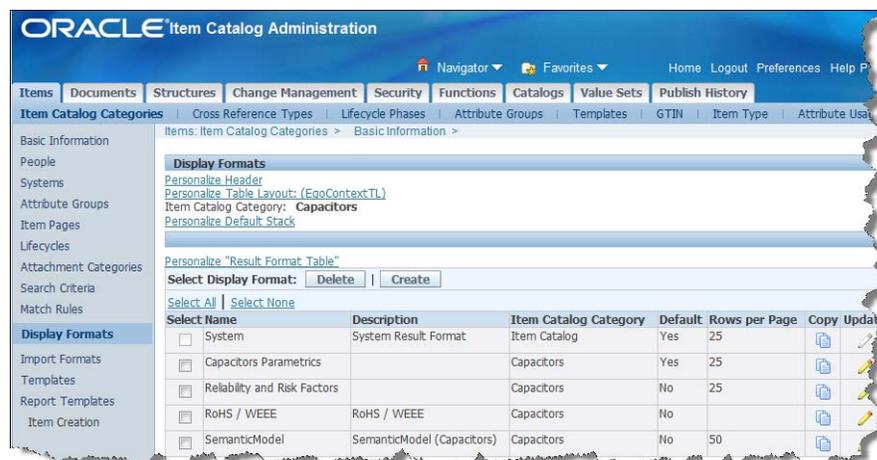
この例では、検索フィールドに「Capacitors」と入力して「Go」をクリックします。



6. 「Capacitors」をクリックします。



7. 左のナビゲーション・メニューで「Display Formats」をクリックし、Product Data Hubで利用できる属性セットから作成されるセマンティック・モデル定義を作成します。



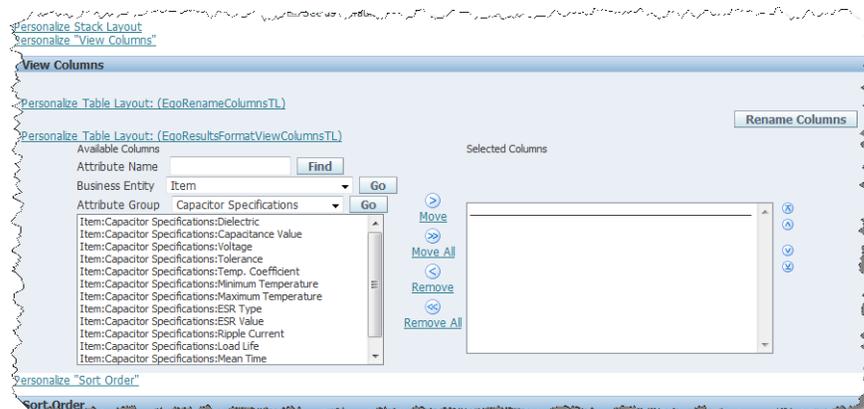
「Display Formats」ページでは、表示モデルの作成、コピー、編集（更新）、削除が可能です。

8. 「Create」ボタンをクリックして、次のように表示形式を作成します。

9. 「Name」フィールドに「SemanticModel」と入力します。
 10. 「Description」フィールドに「DataLens Semantic Model Attributes」と入力します。
 11. 「Number of Rows Displayed」リストから「100」を選択します。
 12. 「Set as Default」チェック・ボックスを選択します。

13. 左側の「Attribute Columns」リストから「Attributes」を選択します（デフォルトでは、「Primary」の「Attribute Group」からのセットが「Selected Columns」リストにあります）。
 14. 「Selected Columns」ペインから「Item:Primary:」の属性をすべて削除するには、「Remove All」をクリックします。
 15. 「Business Entity」リストから「Item」を選択します。
 16. 各「Attribute Group」に、属性値のセットがあります。「Attribute Group」リストから「Capacitor Specifications」を選択し、「Go」をクリックします。

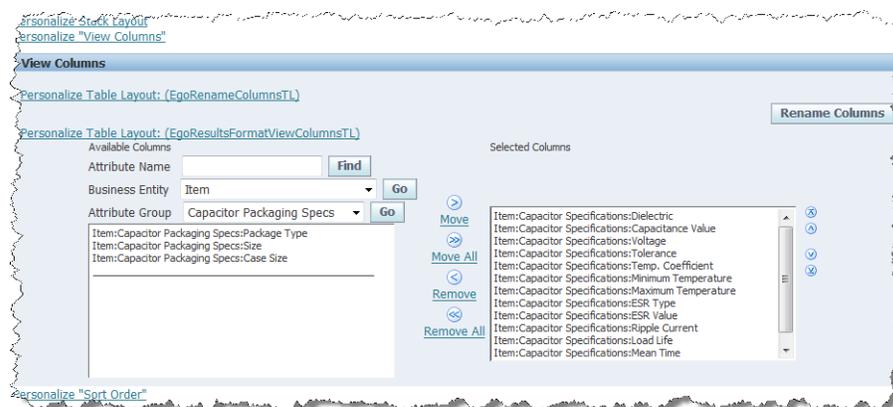
その「Attribute Group」に関連付けられている属性のセットが表示されます。



17. 「Available Columns」リストから「Item:Capacitor Specifications」の属性をすべて選択し、「Move All」をクリックします。

Capacitorの属性がすべて、「Selected Columns」リストに移動します。

18. 「Attribute Group」リストから「Capacitor Packing Specs」を選択し、「Go」をクリックします。



19. 「Available Columns」リストから「Item:Capacitor Packing Specs:Case」と「Item:Capacitor Packing Specs:Case Size」を選択し、「Move」をクリックします。

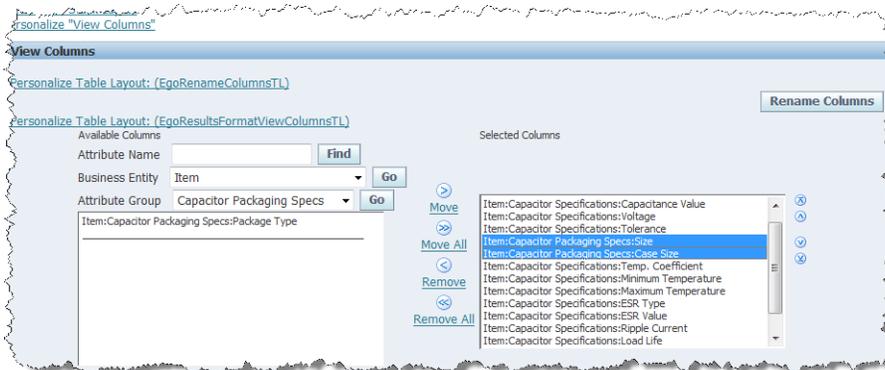
「Selected Columns」リストの属性は、次のようになります。

| Business Entity | Attribute Group | Attribute |
|-----------------|--------------------------|---------------------|
| Item | Capacitor Specifications | Capacitance |
| Item | Capacitor Specifications | Dielectric |
| Item | Capacitor Specifications | Voltage |
| Item | Capacitor Specifications | Tolerance1 |
| Item | Capacitor Packing Specs | Case |
| Item | Capacitor Packing Specs | Case_Size |
| Item | Capacitor Specifications | Temp_Coefficient |
| Item | Capacitor Specifications | Min_Temperature |
| Item | Capacitor Specifications | Maximum_Temperature |

| Business Entity | Attribute Group | Attribute |
|-----------------|--------------------------|----------------|
| Item | Capacitor Specifications | Mount |
| Item | Capacitor Specifications | ESR_Type |
| Item | Capacitor Specifications | ESR_Value |
| Item | Capacitor Specifications | Ripple_Current |
| Item | Capacitor Specifications | Load_Life |
| Item | Capacitor Specifications | Mean_Time |

20. AutoBuild を使用して作成するデータ・レンズでのデフォルト属性の順序になるので、属性の順序は重要です。

矢印ボタンを使用して「Selected Columns」リストの属性の順序を並べ替え、「Item:Capacitor Packing Specs:Case」および「Item:Capacitor Packing Specs:Case Size」属性が「Item:Capacitor Specifications:Tolerance」のすぐ下に続くようにします。



21. 「Apply」 ボタンをクリックします。

AutoBuild プロセスへの入力に対して、指定したすべての属性で「SemanticModel」という名前の新しい表示形式が作成されます。

3. PIM_Connector データ接続の作成

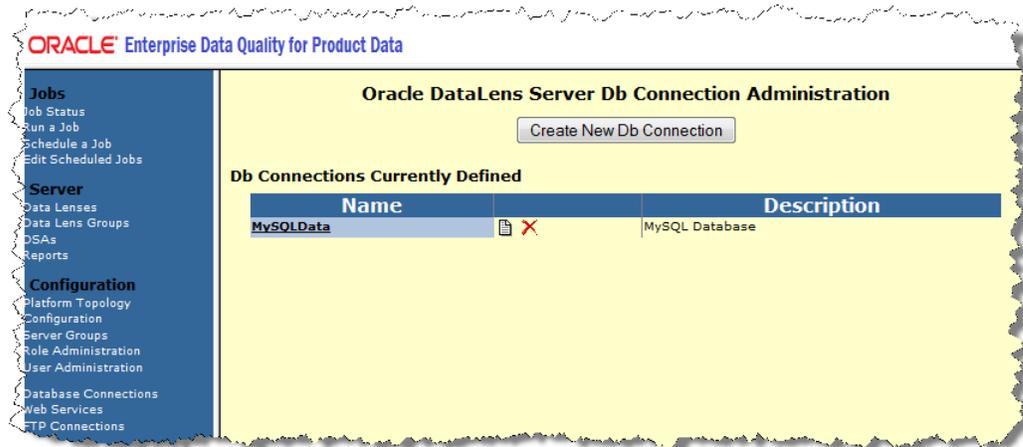
データを処理するには、EDQP DSA で使用するデータベース接続を作成する必要があります。このデータベース接続は、Oracle DataLens Administration Server Web ページを使用して EDQP Oracle DataLens Administration Server で作成されます。詳細は、*Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Oracle DataLens Server 管理者ガイド*を参照してください。

1. Oracle DataLens Administration Server Web ページにアクセスします。

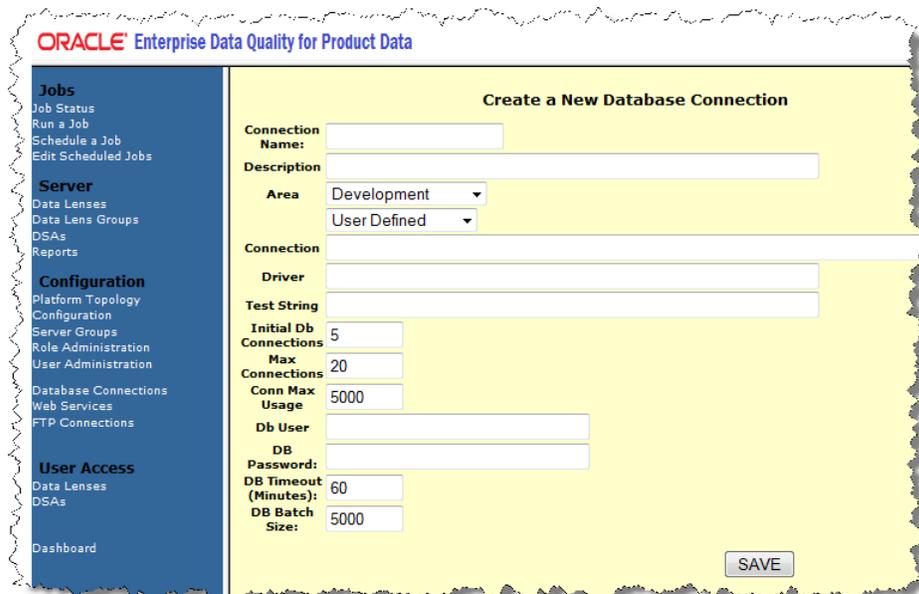
<http://server:2229/datalens>

server は、Oracle DataLens Server の名前です。

2. ログインします。
3. メニューの「**Configuration**」セクションで、「**Database Connections**」をクリックします。



4. 「**Create New Db Connection**」をクリックします。



5. 「**Connection**」フィールドの上にあるリストから、接続タイプとして「**Oracle**」を選択します。フォームにデフォルト情報が自動的に設定されます。

ORACLE Enterprise Data Quality for Product Data

Create a New Database Connection

Connection Name:

Description:

Area: Development

Connection: jdbc:oracle:thin:@MACHINE:1521:DBNAME

Driver: oracle.jdbc.driver.OracleDriver

Test String: SELECT * FROM dual

Initial Db Connections: 5

Max Connections: 20

Conn Max Usage: 5000

Db User:

DB Password:

DB Timeout (Minutes): 60

DB Batch Size: 5000

SAVE

6. 「Connection Name」フィールドに「PIM_Connector」と入力します。

「Connection Name」は、これと正確に同じ名前にする必要があります。同じでないプロセスが正常に動作しません。DSA は、正確にこの名前が付いた接続に依存します。

7. フォームを完成します。

- a. このデータベース接続の説明を入力します。
- b. 「Connection」フィールドで、使用している環境に一致するようにマシン名、Oracle データベースのポート、データベース SID を編集します。

この例では、次のような値に設定します。

rws3210039.us.oracle.com:1616:pim1213

Oracle データベース・ポートのデフォルト値は 1521 です。

- c. データベース・ユーザー名を入力します。
- d. データベース・ユーザーのパスワードを入力します。

ORACLE Enterprise Data Quality for Product Data

Jobs
 Job Status
 Run a Job
 Schedule a Job
 Edit Scheduled Jobs

Server
 Data Lenses
 Data Lens Groups
 DSAs
 Reports

Configuration
 Platform Topology
 Configuration
 Server Groups
 Role Administration
 User Administration
 Database Connections
 Web Services
 TTP Connections

User Access
 Data Lenses
 DSAs
 Dashboard

Create a New Database Connection

Connection Name: PIM_Connector

Description: PIM Connection

Area: Development
 Oracle

Connection: jdbc:oracle:thin:@rws3210039.us.oracle.com:1616:pim1213

Driver: oracle.jdbc.driver.OracleDriver

Test String: SELECT * FROM dual

Initial Db Connections: 5

Max Connections: 20

Conn Max Usage: 5000

Db User: pimmgr

DB Password: ●●●●●●

DB Timeout (Minutes): 60

DB Batch Size: 5000

SAVE

8. 「Save」をクリックします。

接続情報を保存し、データベース接続のリストに戻ると、リストに接続情報が追加されます。

9. 「PIM_Connector」データベース接続をクリックします。

10. 「Test Saved Development Connection」ボタンをクリックし、EDQP Named Development Database Connection が正常に動作していることを確認します。次のメッセージが表示されます。

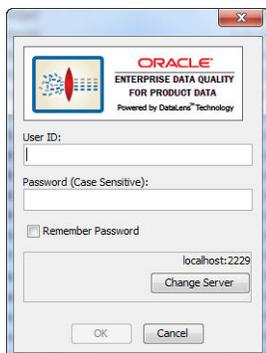
SUCCESSFUL test of the database connection

4. Excel からの ICC インポートの処理

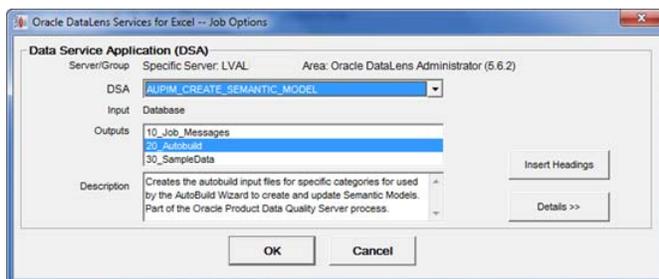
Services for Excel を使用して、ICC および属性メタデータを Oracle PIM Data Hub システムからインポートし、AutoBuild で使用するインポート・ファイルを作成します。Services for Excel の詳細は、*Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Services for Excel* リファレンス・ガイドを参照してください。

1. Excel を起動します。
2. 「アドイン」タブの「**Services for Excel**」ツールバーで「**DataLens Tools**」をクリックし、「**Job Options**」を選択して必要なジョブ・パラメータを設定します。

Oracle DataLens Server にログインするよう指示されます。



3. ユーザー ID とパスワードを入力し、「**OK**」をクリックします。
オプション: 別のサーバーにログインする、またはセキュア HTTP を使用する場合は、「**Change Server**」ボタンを使用します。
4. 「**DSA**」リストから「**AUPIM_CREATE_SEMANTIC_MODEL**」 DSA を選択します。



5. 「**Insert Headings**」をクリックし、オープンしている Excel ワークブックを、DSA で定義されている正しい入力および出力列見出しで更新して、「**OK**」をクリックします。

次の 3 つのシートが作成されます。

- 「10_Job_Messages」ワークシートには、実行された DSA ジョブと生成されたメッセージに関する情報が含まれています。
- 「20_Autobuild」ワークシートには、次の列があります。

| 列 | 定義 |
|-------------------------|--------------|
| parent_catalog_group_id | システム ID |
| parent_catalog_group | ICC 親階層のノード名 |
| catalog_group_id | システム ID |
| catalog_group | ICC Name |

| 列 | 定義 |
|------------|------------|
| attr_id | システム ID |
| attr_name | 属性名 |
| attr_value | 属性値 |
| attr_uom | 属性が単位 |
| valueset | 使用する属性値を設定 |

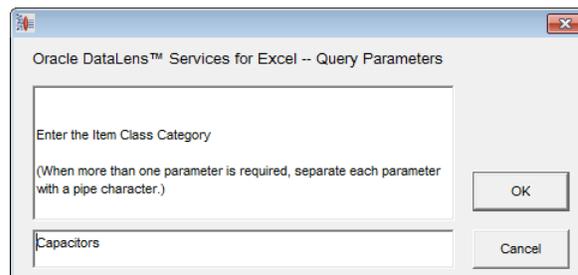
DSA ジョブが正常に実行されるためには、これらと正確に同じ列がこの順序で存在する必要があります。

- 「30_SampleData」ワークシートには、次の列があります。

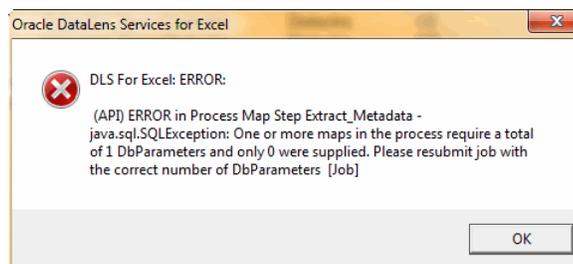
| 列 | 定義 |
|---------------|----------|
| catalog_group | ICC Name |
| item_number | 部品番号 |
| description | 属性の説明 |

6. 「Process Records」 ボタンをクリックして AUPIM_CREATE_SEMANTIC_MODEL DSA を実行し、R12 PIM Connector で使用される AutoBuild 入力シートを作成します。

AUPIM_CREATE_SEMANTIC_MODEL DSA が実行されます。



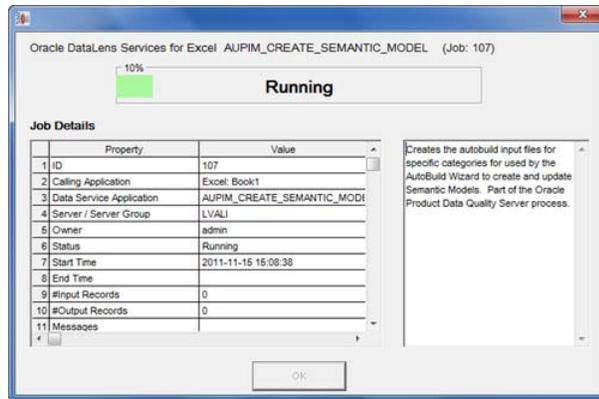
注意： 次のメッセージが表示される場合は、DSA ジョブのオプションが適切に設定されていません。



「DataLens Tools」 ボタンをクリックして 「Job Options」 を選択し、ステップ 4 に戻ります。

7. 作成しているデータ・レンズに関連付けられる ICC パラメータを入力し、「OK」をクリックします。たとえば、「Capacitors」と入力します。

ジョブがサーバーに発行されて処理されます。



- 「OK」をクリックします。

「10_Job_Messages, 20_AutoBuild」と「30_SampleData」のシートに、AutoBuildで使用するデータが設定されます。

- 次の項、2-18 ページの「5. Excel で AutoBuild Wizard を使用してデータ・レンズを作成」に進んでください。

5. Excel で AutoBuild Wizard を使用してデータ・レンズを作成

AutoBuild は、使用可能な製品メタデータからデータ・レンズを構築します。このワークシートには、Services for Excel によって必要な AutoBuild の値がすべて事前に移入されます。また、PIM で製品データが使用可能な場合には、DSA ジョブが個別の製品データをプルして「30_SampleData」ワークシートに書き込み、そのデータを使用してデータ・レンズでサンプル・データ・ファイルが作成されます。

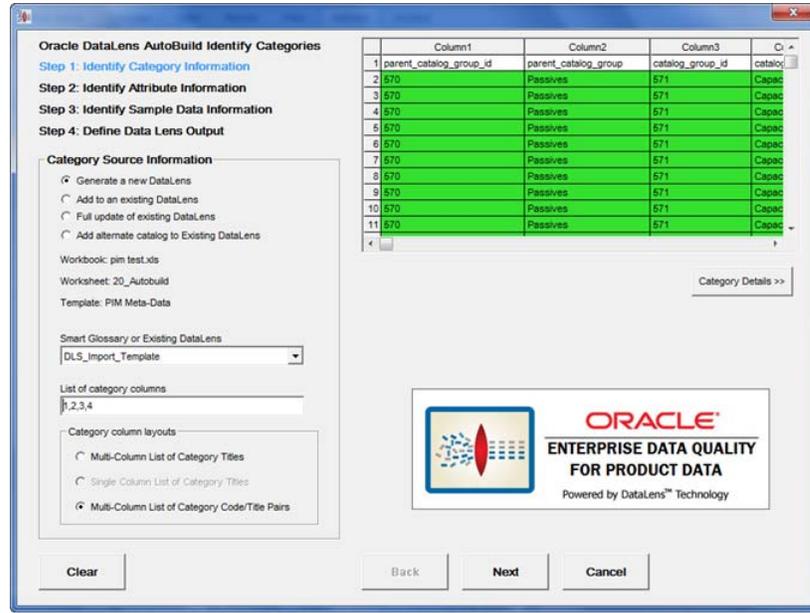
情報が正しくフォーマットされていれば、AutoBuild は次の処理を実行できます。

- ICC に基づく、必須属性およびスコアリング属性がそろった完全な品目定義階層の構築
- 豊富な用語およびフレーズ認識ルールの構築
- 照合ルール（完全一致と近似一致）の作成
- 標準化のタイプの作成
- 値セットの作成

前の項で作成した AutoBuild とメタデータを使用して、データ・レンズを作成します。

- 2-16 ページの「4. Excel からの ICC インポートの処理」の手順を完了していることを確認します。
- 「20_AutoBuild」シートを選択します。
- 「アドイン」タブの「Services for Excel」で「AutoBuild」ボタンをクリックし、AutoBuild プロセスを開始します。
- 「Generate a new DataLens」オプションを選択します。

AutoBuild は AUPIM_CREATE_SEMANTIC_MODEL DSA から作成されたヘッダーを自動的に認識し、各ステップで値を事前設定します。

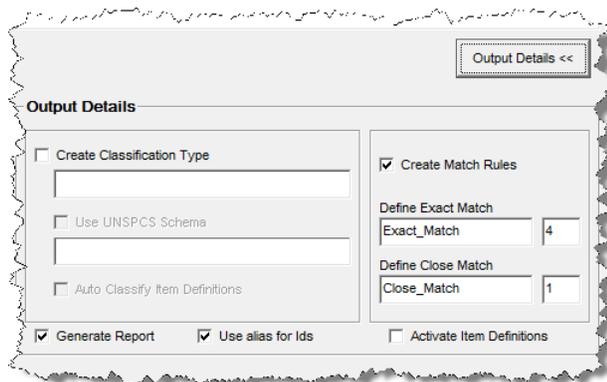


「Generate a new DataLens」オプションを選択すると、AutoBuild Wizard で次の値が事前設定されます。

| ステップとオプション | 値 |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| Step 1: Identify Category Information | |
| Generate a new DataLens | (選択済) |
| Smart Glossary | DLS_Import_Template |
| List of category columns | 1,2,3,4 |
| Category column layouts | Multi-Column List of Category Code/Title Pairs |
| Step 2: Identify Attribute Information | |
| Required Attributes Options | |
| Add Required Attributes | (選択済) |
| Item Name Column(s) | 4 |
| Scoring Attributes Options | |
| Add Scoring Attributes | (選択済) |
| Attribute names are in the same row at the category | (選択済) |
| Row contains Attribute Name/Value pairs/UOM | (選択済) |
| Scoring Attributes | 6,7,8 |
| Single term columns | 6,7,8 |
| Attribute Details | 「Attribute Details」 << を選択 |
| Phrase Separator | ; |
| Maximum Terms in a Phrase | 5 |

| ステップとオプション | 値 |
|-------------------------------------------------|-------------------------|
| Step 3: Identify Sample Data Information | |
| File Selection Options | |
| Use current file | (選択済) |
| Sample Data Worksheet | 30_SampleData |
| Sample Data Rows and Columns Options | |
| Id Column | 2 |
| Group By Column | 1 |
| List of Sample Data Columns | 3 |
| Step 4: Identify Sample Data Information | |
| Data Lens Options | |
| Generate / Update Data Lens | (選択済) |
| Open New / Updated Data Lens | (選択済) |
| New / Updated Data Lens | 一意のデータ・レンズ名を入力 |
| Output Details Options | 「Output Details」 << を選択 |
| Create Match Rules | (選択済) |
| Define Exact Match | Exact_Match 4 |
| Define Close Match | Close_Match 1 |
| Generate Report | (選択済) |
| Use alias for Ids | (選択済) |

- AutoBuild Wizard の「Steps 1」から「Steps 3」までは「Next」をクリックして先に進みます。
- AutoBuild Wizard の「Step 4」で、「Output Details」ボタンをクリックします。



これらのチェック・ボックスは、オプションで次のように使用します。

- Generate Report:** オープンしているワークブックに、新規シートとして追加される一連の AutoBuild レポートを生成する場合に選択します。これには、「AutoLearning Metrics Report」、「Semantic Knowledge Structure」、「AutoBuild Details Report」の各レポートが含まれます。これらのレポートは、AutoBuild のナレッジ構築プロセスの結果を表し、作成されるデータ・レンズに対応します。

AutoBuild レポートの詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data AutoBuild リファレンス・ガイドを参照してください。

- **Use alias for Ids:** 品目定義と属性の別名として生成されるワークシート・ヘッダーを使用するように、自動的に選択されています。
- **Activate Item Definitions:** ソース・データから作成したデータ・レンズで作成される品目定義を有効にするときに選択します。

AutoBuild によって作成される品目定義は不完全な場合があるため、データ・レンズを本番用途でチェックインする前に Knowledge Studio で十分に品目定義をレビューしていない場合、不十分な品目定義に対して多くの照合結果が見つかることがあります。チェック・ボックスを使用してアクティブ / 非アクティブのフラグを設定すれば、出力データに含まれる品目定義をデータ・レンズで設定することができます。

Knowledge Studio は、すべての品目定義を使用してデータを認識しますが、非アクティブのフラグが設定されている場合には本番モードで出力データを標準化しません。つまり、すべての品目定義が認識には使用されるが、出力データの抽出や標準化は行わないということです。これは、本番および QA の Oracle DataLens Servers にのみ適用され、開発サーバーでは非アクティブのフラグが無視されます。

デフォルトでは、AutoBuild によって作成される品目定義は非アクティブに設定されるので、このチェック・ボックスは選択されません。

7. 「Finish」をクリックして、AutoBuild Wizard を完了します。

事前構成した AutoBuild 設定に示された品目定義（カテゴリ）と属性構造を使用して、初期データ・レンズが構築されます。

EDQP が起動し、ログインを求められます。



8. ユーザー ID とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

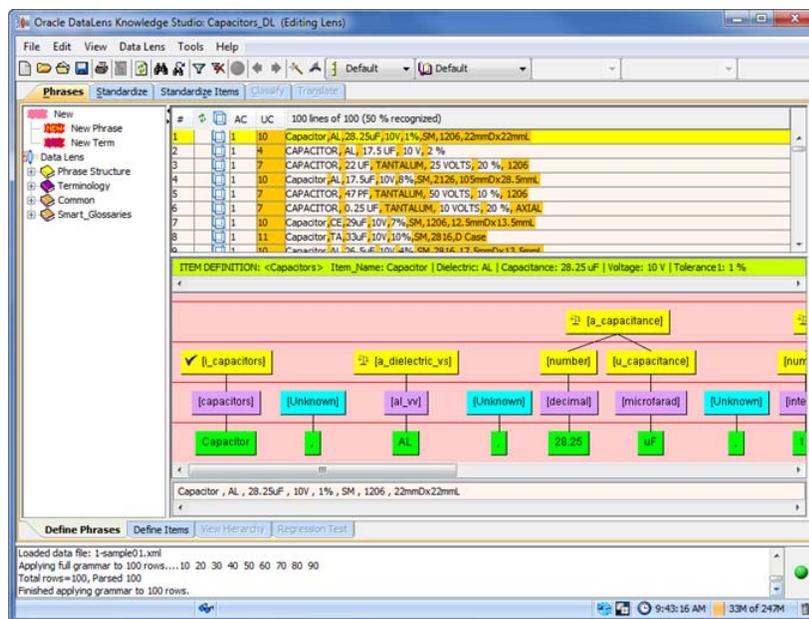
Knowledge Studio が起動し、データ・ファイルの選択を求められます。

9. 「Browse」をクリックします。

10. データ・ファイルを選択し、「Open」をクリックします。

11. 「Check-Outs」ダイアログで「OK」をクリックし、クローズします。

データ・レンズがオープンしたら、レビューして調整します。



Knowledge Studio の詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Knowledge Studio リファレンス・ガイドを参照してください。

12. 次の項、2-24 ページの「6. データ・レンズのレビューと調整」に進んでください。

データ・レンズ作成時の値セットの使用

一部の属性は、値セットと有効な値を持つように PIM で設定されている場合があります。属性値は、指定された値のみが有効になるように制限されます。セマンティック・モデルを作成するとき、この値セットと有効な情報が R12 PIM Connector からエクスポートされ、メタデータ・ワークシートに表示されます。メタデータから作成されるデータ・レンズには、このメタデータ・ワークシートからの有効な値と値セットの情報が反映されます。属性に値セットがある場合、「valueset」列にその値セットの名前が設定され、有効な値は次の例のように「attr_value」列に表示されます。

図 2-1 値セットの例を示したスプレッドシート

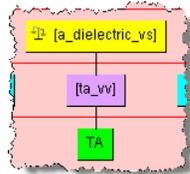
| | A | B | C | D | E | F | G | H | I |
|----|-------------------------|----------------------|------------------|--------------------|-----------------------------|-------------|------------|----------|------------|
| | parent_catalog_group_id | parent_catalog_group | catalog_group_id | catalog_group | attr_id | attr_name | attr_value | attr_uom | valueset |
| 1 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs Dielectric | Dielectric | AB | | Dielectric |
| 2 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs Dielectric | Dielectric | AL | | Dielectric |
| 3 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs Dielectric | Dielectric | CE | | Dielectric |
| 4 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs Dielectric | Dielectric | MP | | Dielectric |
| 5 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs Dielectric | Dielectric | TA | | Dielectric |
| 6 | 570 | Capacitors | 572 | Capacitor Networks | Capacitor_Specs Shielded | Shielded | Yes | | EGO_YES_NO |
| 7 | 570 | Capacitors | 572 | Capacitor Networks | Capacitor_Specs Shielded | Shielded | No | | EGO_YES_NO |
| 8 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs CAPACITANCE | CAPACITANCE | 30 | uF | |
| 9 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs CAPACITANCE | CAPACITANCE | 000225 | uF | |
| 10 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs CAPACITANCE | CAPACITANCE | 47 | uF | |
| 11 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs CAPACITANCE | CAPACITANCE | 20 | uF | |
| 12 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs CAPACITANCE | CAPACITANCE | 20.89999 | uF | |
| 13 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs CAPACITANCE | CAPACITANCE | 015 | uF | |
| 14 | 570 | Passives | 571 | Capacitors | Capacitor_Specs CAPACITANCE | CAPACITANCE | | | |

値セットには、標準値セットと Yes/No 値セットの 2 種類があります。R12 PIM Connector がデータ・レンズでこれらをどのように処理するかを、次に説明します。

標準値セット

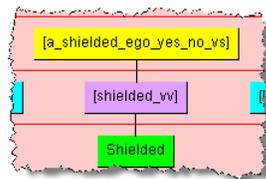
標準値セットの場合、製品データでよく使用される標準形の属性値に有効な値が対応します。この例では、「Dielectric」が「value set」列で指定された属性であり、「AB」、「AL」、「CE」、「MP」および「TA」が「attr_value」列にあります。この値は 4 文字を超えないかぎり略語とみなされ、4 文字を超える場合には EDQP Knowledge Studio での完全形がこの値に設定されま

す。たとえば 2-22 ページの「値セットの例を示したスプレッドシート」のメタデータを使用すると、「AL」でこの用語を略語として設定し、「Aluminum」でこの用語を完全形として設定しています。この略語のフレーズ構造は、次のようになります。



Yes/No 値セット

Yes/No 値セットは、特殊形の値セットで、有効な値として「yes」と「no」（または代替形の「y」と「n」）をとります。たとえば 2-22 ページの「値セットの例を示したスプレッドシート」のメタデータを使用すると、値セットが Yes/No 値セットであり、有効な値が「yes」か「no」です。データ・レンズは、「shielded」および「not-shielded」の認識形に対するフレーズおよび用語ルールがあるように作成されます。また、これらの「y」および「n」属性に対する標準化ルールは、「yes」および「no」に設定されます。yes、つまり shielded という用語のフレーズ構造は、次のようになります。



データ・レンズでは、yes と no の両方のバリエーションすべてが作成されます。たとえば、「not shielded」のバリエーションは次のようになります。

「not shielded」
「not-shielded」
「not-shielded」
「not-shielded」
「not-shielded」
「not-shielded」
「notshielded」

データ・レンズで、すべての値セットのフレーズ・ルール名は、属性に「_vs」を、用語ルール名に「_vv」をそれぞれ追加して作成されるので、フレーズ構造では簡単に識別できます。

値セットを使用するときは、2-25 ページの「データ・レンズの値セットの調整」の説明に従って必ずデータ・レンズを調整してください。

6. データ・レンズのレビューと調整

正しく作成されていることを確認するために、データ・レンズをレビューします。データ・レンズには、AutoBuild プロセスによって定義された適切な品目定義、属性、フレーズ、用語が必要です。

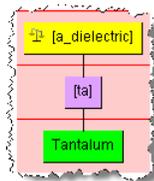
データ・レンズをレビューし、未定義の用語を追加してプロセスを完了する必要があります。次の例では、「Tantalum」という用語が「capacitors」という品目定義によって認識されていないため、「Unknown」になっています。

The screenshot shows the Oracle DataLens Knowledge Studio interface. The main window displays a data lens for 'Capacitors' with a classification tree. The tree structure is as follows:

- [a_voltage]
 - [_capacitors]
 - [Unknown]
 - [capacitors]
 - [Unknown]
 - [number]
 - [u_volt]
 - [decimal]
 - [volt]

The classification path for the highlighted row is: Tantalum (green) -> Capacitor (purple) -> F (green) -> 6.3 (green) -> V (green). The top table shows data rows with columns #, AC, UC, and text. Row 18 is highlighted in yellow and contains 'Tantalum Capacitor F/6.3V'.

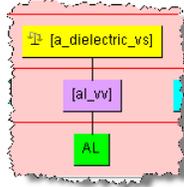
これは「ta」のバリエーションであり、絶縁体（dielectric）の一種です。次の例のように、データ・レンズを調整する追加を行います。



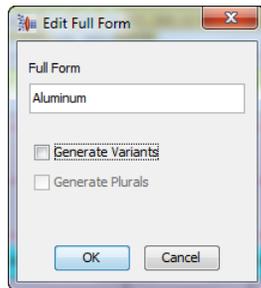
詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Knowledge Studio リファレンス・ガイドを参照してください。

データ・レンズの値セットの調整

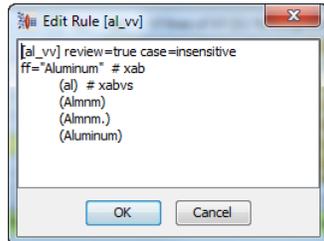
Knowledge Studio で値セットのフレーズ構造を調整する手順は、前項での説明と同じです。一部の用語は他のフレーズに再関連付けされる可能性があるため、値セットに基づいたデータ・レンズの属性をレビューする必要があります。たとえば「Aluminum」属性は、2-22 ページの「値セットの例を示したスプレッドシート」で示された「a_dielectric_vs」フレーズ・ルール の生成結果です。適切な場合には、略語である有効な値の用語に完全形を追加して、データ・レンズの値セットを調整する必要があります。たとえば、用語のバリエーション「aluminum」を用語ルール「al_vv」に追加します。さらに、完全形を「aluminum」に設定します。「Aluminum」の例を使用すると、次のようなフレーズ・ルールになります。



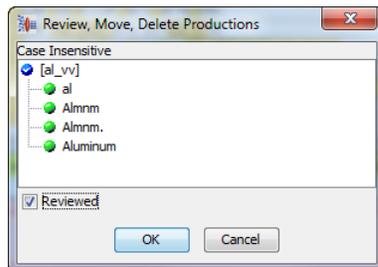
「al_vv」用語を編集し、完全形の「Aluminum」を追加します（バリエーションも生成できます）。



次に、フレーズ・ルールをレビューし、正しく追加されたことを確認します。



最後に、「a_dielectric_vs」フレーズ・ルールの生成結果をレビューします。



注意： AutoBuild は、値セットから作成される時、重複したフレーズの生成結果を無視するので、生成結果はすべて慎重にレビューしてください。

7. 標準化および照合ルールの調整

R12 PIM Connector で、関連するルールは「Match_Attributes」という標準化タイプにあります。R12 PIM Connector ロードに関連するデータを標準化する場合は、「Match_Attributes」標準化タイプに対してすべての調整を行う必要があります。

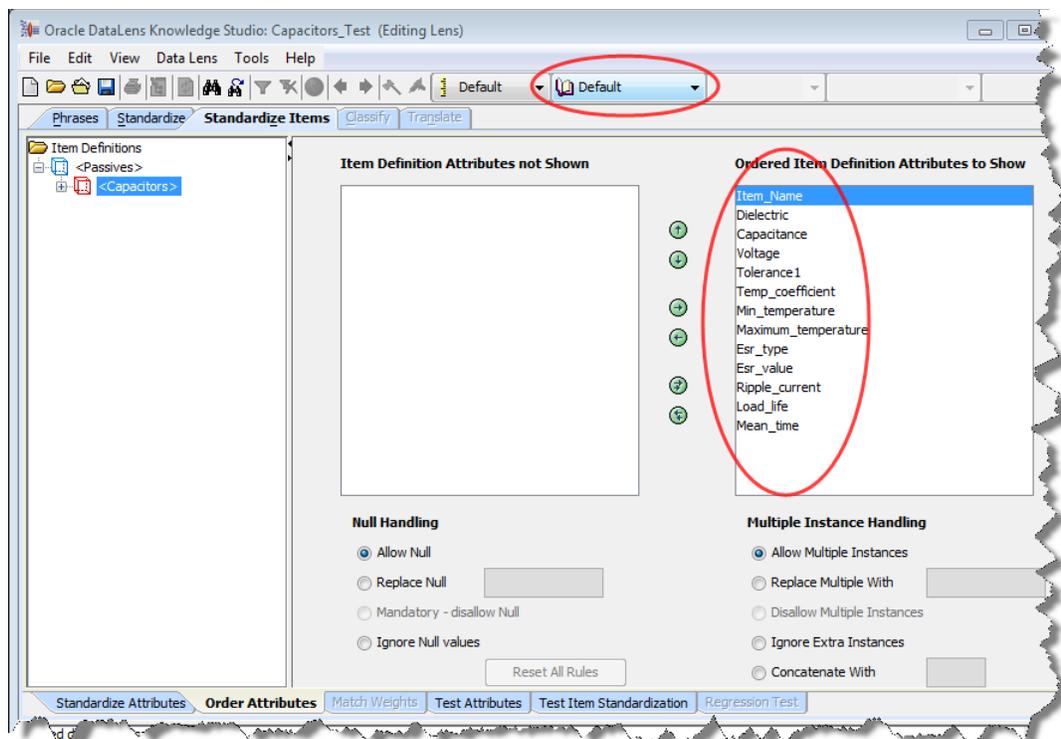
使用可能な標準化は、ツールバーの「Standardizations」リストから表示できます。



注意： 属性の順序は、オープンしているワークブックの「20_AutoBuild」ワークシートの名前 / 値属性の順序と同じで、これは表示形式の順序に基づいています。

Match_Attributes 標準化の場合、2つの照合タイプを作成する必要があります (Exact_Match を4つの属性で、Close_Match を1つの属性で)。

たとえば Match_Attributes 標準化タイプでは、次のような属性の順序になっています。

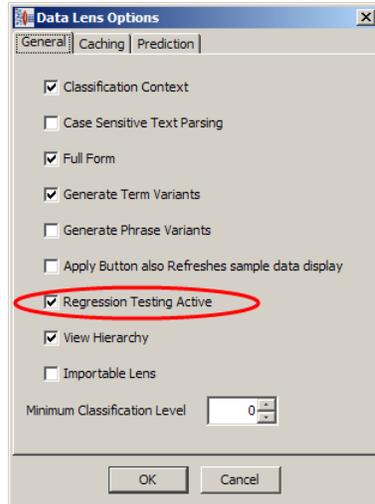


属性の順序をレビューして必要に応じて変更し、データ・レンズに適したフレーズ標準化と置換を作成して、データ・レンズをチェックインします。

8. サンプル・データでのデータ・レンズのテストとベース・ファイルの作成

回帰テストの目的は、データ・レンズの保守によって、以前に保存されていたバージョンのデータ・レンズと比較したときのあいまいさや問題点が発生していないかどうかを検証することです。完全なデータ・レンズに対して変更を行った後には、このステップを実行することが重要です。

回帰テストには、フレーズ、標準化、および分類のタブからアクセスします。回帰テストを有効にするには、「DataLens Options」から「Regression Testing Active」オプションを設定し、ベース・ファイルを作成する必要があります。



回帰テストの設定と使用の詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Knowledge Studio リファレンス・ガイドを参照してください。

データ・レンズの動作に問題がなければ、管理者に連絡し、この新しいデータ・レンズをクレンジングおよび照合のプロセスに関連付けます。

9. セマンティック・キー1 キャッシュ

Enterprise DQ for Product は、特許取得済のセマンティック・テクノロジーを使用して、標準化された属性のセットを作成します。これを出力して一連のマスター・データ、すなわちセマンティック・キー1 キャッシュが生成されます。このキャッシュは、R12 PIM Connector から抽出および標準化された属性情報から作成されるセマンティック索引です。

作成したキャッシュを利用すると、要求された製品と、キャッシュで見つかる項目とを簡単に照合（比較）できます。一致があればそれを戻して、書式、適合および機能などの同等または重複を検出するなどの処理を有効にし、R12 PIM Connector が同じレコードを繰り返して追加しないようにします。

Governance Studio をオープンし、Update_Semantic_Cache ジョブを実行します。カテゴリ（たとえば「Capacitors」）を入力するよう求められます。このジョブが実行されると、このカテゴリのセマンティック・キー1 キャッシュが生成されます。通常、成功した項目に関する結果は「Governance Studio」タブに表示されません。「Unassigned_Semantic_Key」と「Unassigned_Item_Class」の2つのレビュー・タブが作成され、例外に関する情報が示されます。

プロセスの最後に、完全なセマンティック・キー1 キャッシュが得られます。これは実際にはIT 機能であり、構成するにはデータベースの参照が必要です。詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data PIM Connector インプリメンテーション・ガイドを参照してください。

R12 PIM Connector に対する新しい更新がキャッシュに含まれるように、このプロセスは定期的に（たとえば夜間などに）実行するのが一般的です。

R12 PIM Connector バッチのクレンジングと照合

新規作成された R12 PIM Connector バッチのステータスは、EBS で「Active」に設定されます。バッチの処理中、EBS は自動的にバッチのステータスを「Pending」に変更し、処理中のバッチを変更できないようにします。これは、ジョブを正しく処理するために必須のステップです。Governance Studio プロジェクトは、ステータスが「Active」に設定されていないと結果を生成しません。

R12 PIM Connector バッチの作成

処理するために作成できるバッチには2つのタイプがあります。1つ目のタイプは、Excel を使用する外部ソース（PIM の外部）からのバッチです。2つ目のタイプのバッチは、生成（PIM の内部）からのプルです。

注意： EBS PIM Import Workbench に統合されている WebADI ツールを使用すると外部バッチを処理できますが、この章で説明する2つの方法を使用することをお勧めします。

R12 PIM Connector 外部データ・ソース・バッチの作成

Excel を使用すると、PIM 外部のデータを処理するバッチを作成し、次のような PIM インタフェース表にロードすることができます。

- EGO_ITM_USR_ATTR_INTRFC
- MTL_SYSTEM_ITEMS_INTERFACE
- MTL_ALT_CATEGORIES_INTERFACE

外部データは Excel スプレッドシート形式で、次の列をこの順序で含んでいる必要があります。

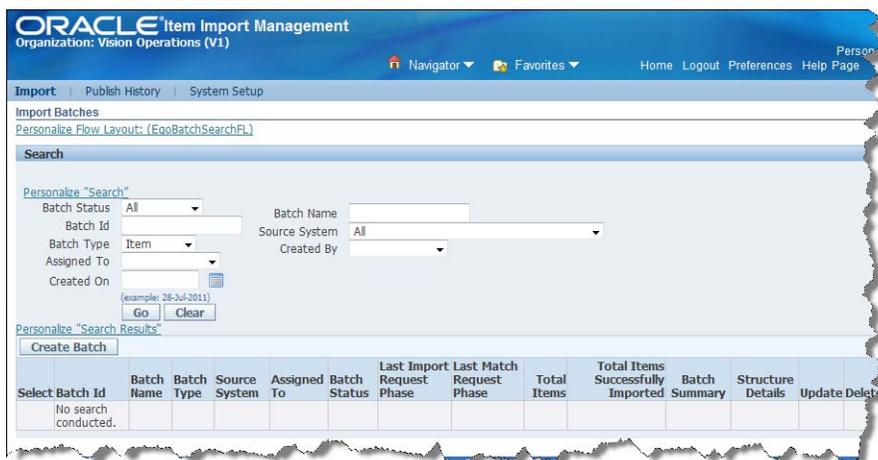
- ID
- source_system_code
- source_system_reference
- description

これらの列は、データの処理に使用される AUPIM_PROCESS_EXTERNAL_DATA DSA に必要です。

1. EBS にログインします。
「Oracle Applications Home Page」が表示されます。
2. EBS 12.1.3 の場合は、「Favorites」をクリックしてメニューを表示します。
3. 「Favorites」リストで、次のようにクリックします。

EBS 12.1.3 の場合 : **Import Batches**

EBS 12.1.1 の場合 : **Import Workbench**



4. 次のいずれかをクリックします。
 - EBS 12.1.3 の場合 : **System Setup**
 - EBS 12.1.1 の場合 : **Source System Setup**
5. 使用する `source_system_code` が EBS に存在することを確認します。
 - a. 「Search」 リストから 「Source System Code」 を選択し、「Go」 をクリックします。

| Source System Name | Description | Source System Code | Type | Enabled For Items | Enabled For Customers | Status | Update |
|----------------------------|------------------------------------------------|--------------------|-----------|-------------------------------------|-------------------------------------|--------|--------|
| APPS-OD Synchronization | Internally used by APPS-OD Synchronization | FHD_OD_SYNCH | Spoke | | | Active | |
| Agile Electronic Supplies | | AgileElectronics | Spoke | <input checked="" type="checkbox"/> | | Active | |
| Agile Electronics Supplies | | Agile2994 | Spoke | <input checked="" type="checkbox"/> | | Active | |
| CAD-01 | CAD Source system for XML based CAD Publishing | CAD01 | Spoke | <input checked="" type="checkbox"/> | | Active | |
| CSV Source System | CSV Source System | CSV | Spoke | | <input checked="" type="checkbox"/> | Active | |
| D&B Source System | D&B Source System | DNB | Purchased | | <input checked="" type="checkbox"/> | Active | |
| Default Source System Name | Default Source System Name | UNKNOWN | Spoke | | <input checked="" type="checkbox"/> | Active | |
| Design Source System | Design Source System | ADSDSGNSS | Spoke | <input checked="" type="checkbox"/> | | Active | |
| EPHY | Ephany Marketing System | EPHY | Spoke | | <input checked="" type="checkbox"/> | Active | |
| FACTETS | Vision Health Member Information Source | FACTETS | Spoke | | <input checked="" type="checkbox"/> | Active | |

- b. リストに、使用する `source_system_code` があるかどうかを確認します。この例では、「Agile2994」ソース・システム・コードを使用します。

存在する場合には、「Enabled for Items」列にチェック・マークが付いていることを確認します。必要な場合には、「Update」の鉛筆アイコンをクリックして「Enabled for Items」オプションを選択し、「Apply」をクリックします。ステップ6に進みます。

存在しない場合には、ステップcに進みます。
 - c. 「Define Source System」をクリックし、EBS で新しいソース・システム・コードを作成します。
 - d. 「Name」フィールドに、ソース・システム名を入力します。
 - e. 「Code」フィールドに、使用するソース・システム・コードを入力します。
 - f. 「Enabled for Items」オプションを選択します。
 - g. 「Apply」をクリックします。

新しいソース・システム・コードが作成され、リフレッシュされた「Source Systems」ページに表示されます。ページをリフレッシュするために「Go」のクリックが必要な場合もあります。
6. クライアント・マシンで、Excel を起動します。
7. 外部データを含む Excel スプレッドシートをオープンします。この例では、`CapacitorsExternalBatchTestInput.xls` テンプレート・スプレッドシートをオープンします。

| ID | source_system_code | source_system_reference | description |
|----|--------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------|
| 1 | ADSDSGNSS | DML70001 | Capacitor,AL,20uF,10V,5%,SM,1206,10mmDx16mmL |
| 2 | ADSDSGNSS | DML70002 | X7R Capacitor, AX B CASE 47PF 10% 50V 1206 tantalum 50C |
| 3 | ADSDSGNSS | DML70003 | AL 40C A CASE CAP 0.1UF 60V 20% Z5U AX |
| 4 | ADSDSGNSS | DML70004 | Capacitor,AL,20.5uF,10V,1%,RD,1206,105mmDx28.5mmL |
| 5 | ADSDSGNSS | DML70005 | 330 picofarad vcas cap 10% 250 volt axl alum 0803 |
| 6 | ADSDSGNSS | DML70006 | CAPACITOR, 22 UF, TA, 100 VOLTS, 5 %, 0803 |
| 7 | ADSDSGNSS | DML70007 | CAP 10UF TA 16V 20% C CASE |
| 8 | ADSDSGNSS | DML70008 | 50V AL Cap 220pF D CASE 1206 20% Y5V SM 40C |
| 9 | ADSDSGNSS | DML70009 | AXIAL CAP,0803,D CASE, CE,,01UF,50V,20%,X7R |
| 10 | ADSDSGNSS | DML70010 | Capacitor,TA,100uF,10V,10%,SM,2816,D CASE |
| 11 | ACME | DML70011 | 2000V Copper cable 10% PVC Sheath |
| 12 | ACME | DML70012 | cap alum 1 microfarad 400volts 1 percent 1206 b-case |
| 13 | ACME | DML70013 | A CASE CAPACITOR 0.1UF 50V 20% Z5U AX, TANTALUM, 1206, 40C |
| 14 | ACME | DML70014 | cap alum 1 microfarad 400volts 1 percent 1206 b-case |

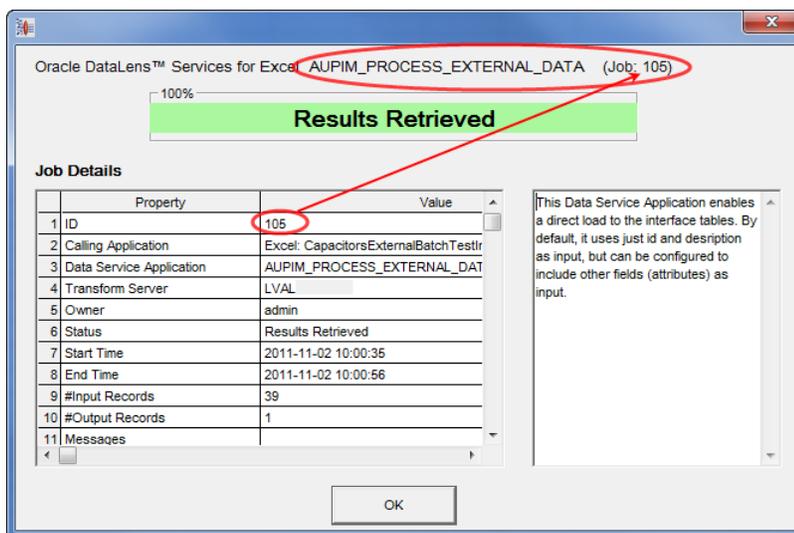
8. システム・プロファイル・オプションで設定した名前に一致するように、「source_system_code」列を変更します。この例では「Agile2994」です。

| ID | source_system_code | source_system_reference | description |
|----|--------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------|
| 1 | Agile2994 | DML70001 | Capacitor,AL,20uF,10V,5%,SM,1206,10mmDx16mml |
| 2 | Agile2994 | DML70002 | X7R Capacitor, AX B CASE 47PF 10% 50V 1206 tantalum 50C |
| 3 | Agile2994 | DML70003 | AL 40C A CASE CAP 0.1UF 60V 20% Z5U AX |
| 4 | Agile2994 | DML70004 | Capacitor,AL,20.5uF,10V,1%,RD,1206,105mmDx28.5mml |
| 5 | Agile2994 | DML70005 | 330 picofarad vcas cap 10% 250 volt axl alum 0803 |
| 6 | Agile2994 | DML70006 | CAPACITOR, 22 UF, TA, 100 VOLTS, 5 %, 0803 |
| 7 | Agile2994 | DML70007 | CAP 10UF TA 16V 20% C CASE |
| 8 | Agile2994 | DML70008 | 50V AL Cap 220pF D CASE 1206 20% Y5V SM 40C |
| 9 | Agile2994 | DML70009 | AXIAL CAP,0803,D CASE, CE,.01UF,50V,20%,X7R |
| 10 | Agile2994 | DML70010 | Capacitor,TA,100uF,10V,10%,SM,2816,D CASE |
| 11 | Agile2994 | DML70011 | 2000V Copper cable 10% PVC Sheath |
| 12 | Agile2994 | DML70012 | cap alum 1 microfarad 400volts 1 percent 1206 b-case |
| 13 | Agile2994 | DML70013 | A CASE CAPACITOR 0.1UF 50V 20% Z5U AX, TANTALUM, 1206, 40C |
| 14 | Agile2994 | DML70014 | D CASE CAP 25U CE .1UF 100V 20% SM 0803 |

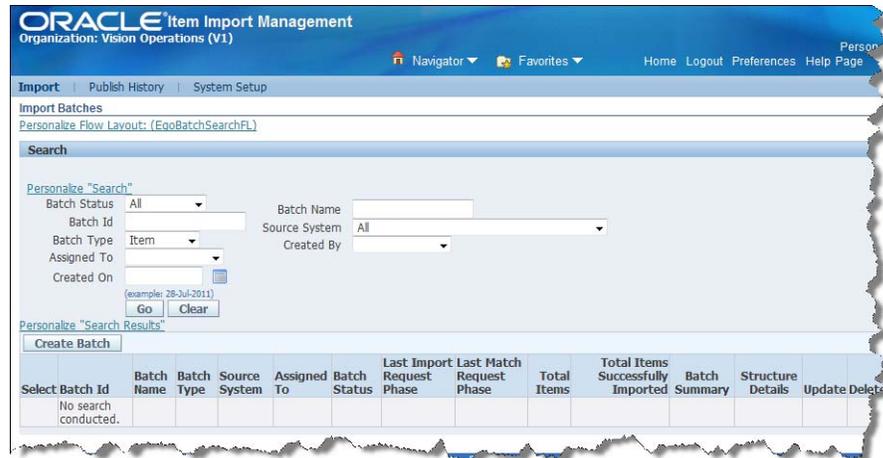
9. 「アドイン」タブの「Services for Excel」 ツールバーで、「Process Records」 ボタンをクリックします。

Oracle DataLens Server にまだログインしていない場合は、**Oracle Enterprise Data Quality for Product Data 「Login」** ダイアログ・ボックスが表示されます。表示されるサーバーにログインするか、「Change Server」 ボタンを使用して別のサーバーにログインします。

サーバーに正常にログインすると、データが処理されて PIM インタフェース表に挿入され、PIM にバッチが作成されます。処理された DSA と JobID を示すステータス・ダイアログ・ボックスが表示されます。



10. 「OK」 をクリックします。
11. 「10_Job_Messages」 ワークシートをレビューし、処理エラーが発生しないことを確認します。エラーが発生する場合には、DSA またはデータでエラーを解決し、再度処理を実行してください。
12. EBS に戻ります。
13. 「Import」 をクリックすると、「Import Batches」 ページに戻ります。



14. 「Go」をクリックします。

すべてのバッチが表示されます。

15. バッチのリストをレビューし、外部バッチ・ジョブが表示されることを確認します。Excel に表示される JobID は、「Batch Name」に含まれます。

| Select | Batch Id | Batch Name | Batch Type | Source System | Assigned To | Batch Status | Last Import Request Phase | Last Match Request Phase | Total Items | Total Items Successfully Imported | Batch Summary | Structure Details | Update |
|-----------------------|----------|-----------------------------|------------|-----------------------------------------|----------------|--------------|---------------------------|--------------------------|-------------|-----------------------------------|---------------|-------------------|--------|
| <input type="radio"/> | 10004061 | External Batch - JobID: 105 | Item | Product Information Management Data Hub | Edgar Williams | Active | | | 38 | 0 | ∞ | | |
| <input type="radio"/> | 10004044 | External Batch - JobID: 517 | Item | Agle Electronics Supplies | Edgar Williams | Pending | | | 20 | 0 | ∞ | | |
| <input type="radio"/> | 10004042 | External Batch - JobID: 511 | Item | Product Information Management Data Hub | Edgar Williams | Active | | | 20 | 0 | ∞ | | |
| <input type="radio"/> | 10004041 | External Batch - JobID: 503 | Item | Product Information Management Data Hub | Edgar Williams | Active | | | 38 | 0 | ∞ | | |
| <input type="radio"/> | 10004031 | External Batch - JobID: 89 | Item | Agle Electronic Supplies | Edgar Williams | Active | | | 38 | 0 | ∞ | | |

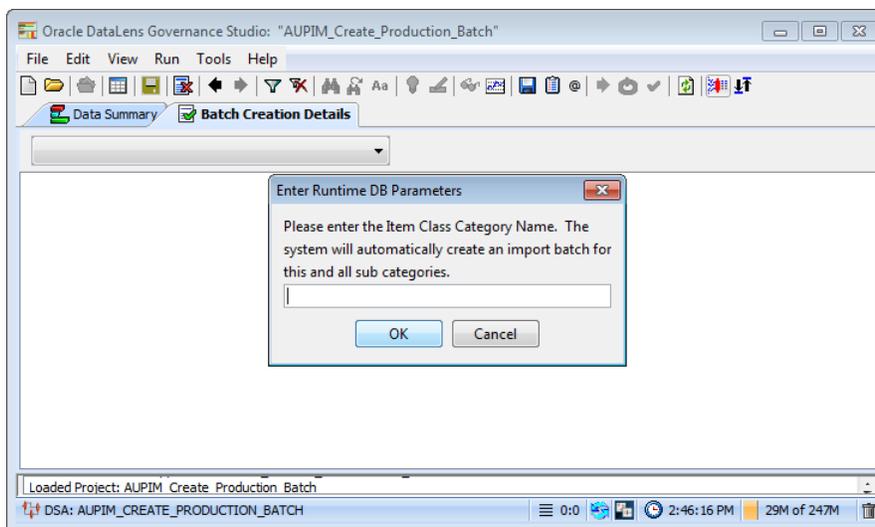
16. オプション: レビューするバッチの行で「Update」の鉛筆アイコンを選択し、「Confirmed」タブをクリックしてバッチ実行の詳細を確認します。

| Select | Match Status | Match Actions | Item: PIMDH: Item | Source System Item | Source System Description | Item Revision: Revision Label | Item: Description | Item: Long Description | Item: Lifecycle |
|-----------------------|--------------|---------------|-------------------|----------------------------------------------------------|---------------------------|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| <input type="radio"/> | Confirmed | | DML70001 | Capacitor, AL, 20uF, 10V, 5%, SM, 1206, 10mmDx16mmL | | | Capacitors, 20 uF, AL, 10 V, 5 %, SM, 1206, 10 MMD X 16 MML | | |
| <input type="radio"/> | Confirmed | | DML70002 | X7R Capacitor, AX B CASE 47PF 10% 50V 1206 tantalum 50C | | | Capacitors, 0.000047 uF, TANTALUM, 50 V, 10 %, 1206, B CASE, X7R, 50 C, 50 C | Capacitors, 0.000047 uF, TANTALUM, 50 V, 10 %, 1206, B CASE, X7R, 50 C, 50 C | |
| <input type="radio"/> | Confirmed | | DML70003 | AL 40C A CASE CAP 0.1UF 60V 20% Z5U AX | | | Capacitors, 0.1 uF, AL, 60 V, 20 %, A CASE, Z5U, 40 C, 40 C | | |
| <input type="radio"/> | Confirmed | | DML70004 | Capacitor, AL, 20.5uF, 10V, 1%, RD, 1206, 105mmDx28.5mmL | | | Capacitors, 20.5 uF, AL, 10 V, 1 %, RD, 1206, 105 MMD X 28.5 MML | Capacitors, 20.5 uF, AL, 10 V, 1 %, RD, 1206, 105 MMD X 28.5 MML | |

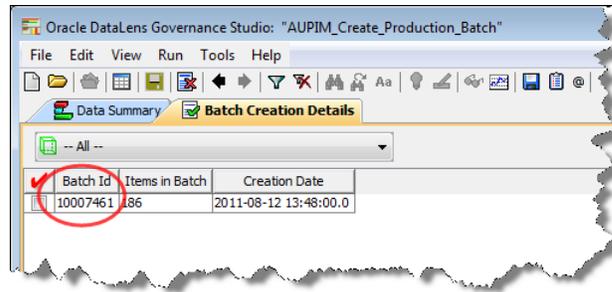
R12 PIM Connector 生成プル・データ・ソース・バッチの作成

Governance Studio プロジェクトの AUPIM_Create_Production_Batch.ams は、PIM の生成表からデータをプルして新しいバッチを作成します。

1. EDQP を起動してログインします。
EDQP Launch Pad が表示されます。
2. 「Oracle DataLens Governance Studio」をクリックします。
詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data Governance Studio リファレンス・ガイドを参照してください。
3. 「AUPIM_Create_Production_Batch」プロジェクトを選択するか、「Cancel」をクリックして次のようにインポートします。
 - a. 「File」メニューから「Import」を選択します。
 - b. gov_studio_projects ディレクトリで、R12 PIM Connector のインストール中に抽出した AUPIM_Create_Production_Batch.ams ファイルを探します。インストールの詳細は、Oracle Enterprise Data Quality for Product Data PIM Connector インプリメンテーション・ガイドを参照してください。
 - c. ファイルを選択して「Open」をクリックします。
プロジェクトがインポートされ、オープンします。
4. ツールバーで「Transform Data」をクリックし、生成プル・バッチを開始します。



5. 品目カテゴリの名前、この例では「Capacitors」を入力し、「OK」をクリックします。
ジョブが終了すると、選択した品目カテゴリのデータを使用して新しいバッチが作成されます。
6. 「Batch Creation Details」タブを選択してジョブ実行の結果を表示し、後で使用できるように新しいバッチ ID を書きとめるか、コピーします。



7. 生成バッチの検証を開始します。EBS Web サイトにアクセスします。

http://rws3210039.us.oracle.com:8095/OA_HTML/AppsLogin



8. EBS にログインします。

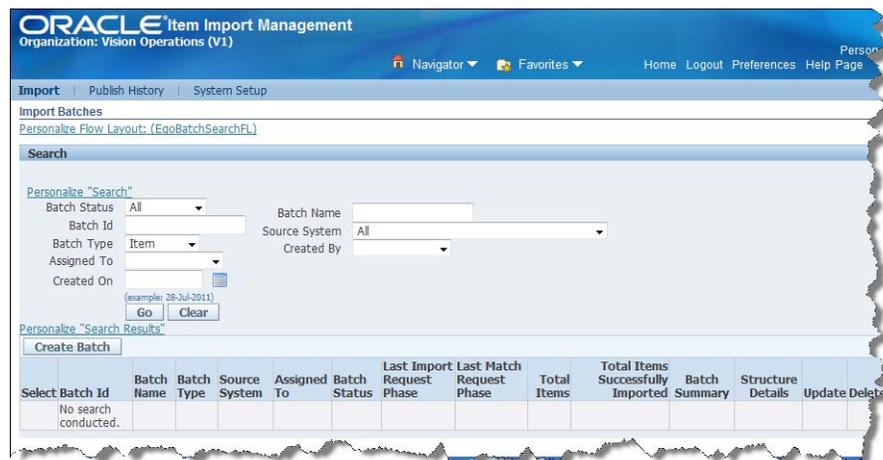
「Oracle Applications Home Page」が表示されます。

9. EBS 12.1.3 の場合は、「Favorites」をクリックしてメニューを表示します。

10. 「Favorites」リストで、次のようにクリックします。

EBS 12.1.3 の場合 : **Import Batches**

EBS 12.1.1 の場合 : **Import Workbench**



11. 「Go」をクリックします。

すべてのバッチが表示されます。

12. バッチのリストをレビューし、外部バッチ・ジョブが表示されることを確認します。Excel に表示される JobID は、「Batch Name」に含まれます。

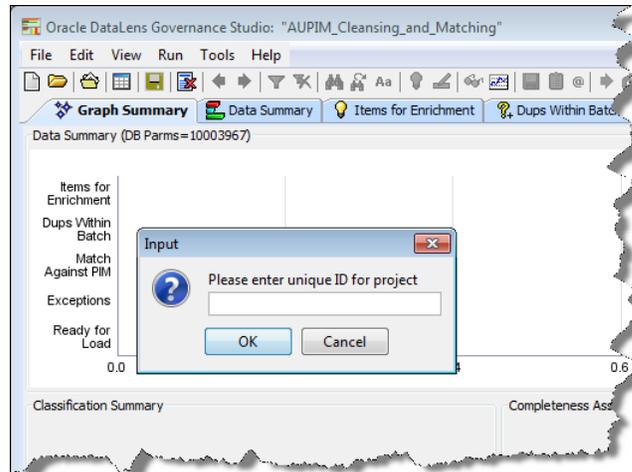
| Batch Id | Batch Name | Batch Type | Source System | Assigned Batch To | Status | Last Import Request Phase | Last Match Request Phase | Total Items | Successful |
|----------|-----------------------------|------------|-----------------------------------------|-------------------|---------|---------------------------|--------------------------|-------------|------------|
| 10004061 | External Batch - JobID: 105 | Item | Product Information Management Data Hub | Edgar Williams | Active | | | 38 | |
| 10004044 | External Batch - JobID: 517 | Item | Agile Electronics Supplies | Edgar Williams | Pending | | | 20 | |
| 10004042 | External Batch - JobID: 511 | Item | Product Information Management Data Hub | Edgar Williams | Active | | | 20 | |
| 10004041 | External Batch - JobID: 503 | Item | Product Information Management Data Hub | Edgar Williams | Active | | | 38 | |
| 10004031 | External Batch - JobID: 89 | Item | Agile Electronic Supplies | Edgar Williams | Active | | | 38 | |

13. 新規作成されたバッチを Oracle Batch Interface 表でレビューします。新しいバッチでは、次のデフォルトが使用されます。

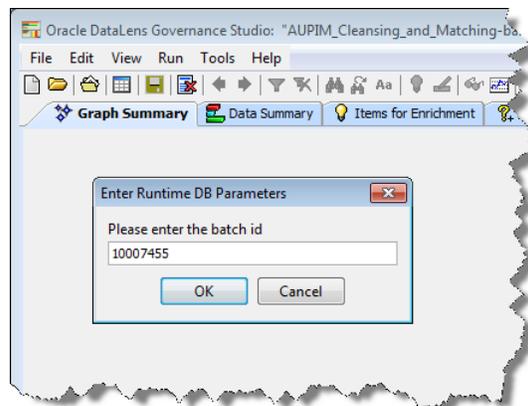
| フィールド名 | 値 |
|---------------|-------------------|
| Batch Id | 新しいバッチ番号 (システム生成) |
| Batch Name | DLS 生成プル・バッチ |
| Batch Type | Item |
| Source System | Agile9224 |
| Assigned To | Albert Bakker |
| Batch Status | Completed |

注意： システムが適切にバッチを処理できるように、バッチは「Active」ステータスに設定されます。そうでない場合、エラーが生成されます。

- Oracle バッチが生成され、前項で説明したように選択した品目カテゴリに対して生成 PIM データから作成された「**Confirmed**」タブで、EBS にインポートされた一連の行をレビューできます。インポートされた行は、PIM であるため「**Confirmed**」とみなされます。
14. この生成プル・バッチの EBS バッチ ID を指定します。バッチ ID は、選択したカテゴリに対してプルされたデータを処理する一意の Governance Studio ジョブを作成する際に使用します。
15. Governance Studio に戻ります。
16. DataLens_Cleansing_and_Matching プロジェクト、または以前に作成したプロジェクト (たとえば DataLens_Cleansing_and_Matching-10003377) をオープンします。
17. 「File」メニューから「New Project From...」を選択します。



18. ステップ 6 で書きとめておいた Governance Studio バッチ ID 番号を入力し、「Run」をクリックします。この例では「batch1396」です。
19. 「Refresh」、「Yes」の順にクリックします。
20. 「Transform Data」、「Yes」の順にクリックします。



21. ステップ 14 で書きとめておいた EBS バッチ ID を入力します。この例では「10007455」です。
ジョブが実行され、「Governance Studio」タブにデータが設定されます。

R12 PIM Connector 生成ブル・バッチ結果のレビュー

Governance Studio の DataLens_Cleansing_and_Matching ジョブが実行されると一連の出力タブが生成され、一連の処理タブを使用してバッチを処理する方法が示されます。

それぞれのタブで使用されるロジックは次のとおりです。

| タブ名 | 説明 |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Graph Summary | バッチ処理の状態のグラフィカルなサマリーを示します。 |
| Data Summary | 処理カテゴリ別に合計を表示します。項目の処理に応じて数値が変化するので、このタブを監視して結果を検証することができます。たとえば、PIM にインポートする品質しきい値を満たす段階までレコードを補完した場合、「Items for Enrichment」カテゴリから「Confirmed New Review」カテゴリに移動します。 |
| Items for Enrichment | ソース・レコードが重複ではなく、品質指標のしきい値に満たない場合は、PIM へのロードに必要な完全状態になるようにレコードを補完するためにこのタブに表示されます。 |
| Dups Within Batch | 元のソース・バッチ内で重複をチェックし、その処理方法を決定するように重複を表示します。 |
| Match Against PIM | セマンティック索引キャッシュを利用して、PIM にレコードを持つソースをチェックし、そのソースが PIM の既存レコードに対して重複しているかどうかを確認します。 |
| Exceptions | レコードが品質指標に満たない場合（何も認識されない）は、例外となります。 |
| Ready for Load | 完全に適合化、標準化および補完されて PIM へのインポート準備ができています。 |
| Release Batch | Oracle バッチを「Pending」から「Active」に変更するメカニズムを提供し、完了した変更のレビューを可能にします。 |

次の各項では、これらの各タブの使用方法を説明します。

「Items for Enrichment」のレビュー

Governance Studio で AutoSuggest 出力の機能を持つ「Items for Enrichment」タブは、タブ名の左に電球アイコンが付いています。このタブのデータは、スペルミスや略語または文法的な誤りが原因で取得されなかった属性値を自動的に予測する、Governance Studio の AutoSuggest 機能を利用できます。このタブが空でなく、推奨を利用可能な場合、電球の付いた「AutoSuggest」ボタンがツールバーでアクティブになります。推奨がなかった場合は、このボタンがグレー表示になります。

「AutoSuggest」出力タブをクリックすると、DSA の個々の出力ステップによって出力に指定されたデータ行のリストが表示されます。推奨を表示するには、電球の付いた「AutoSuggest」ボタンをクリックします。推奨が緑色で強調表示されます。

AutoSuggest 表では、さらにデータを処理して推奨の編集、移動、コピー、確定を容易にするいくつかの操作があります。出力表で使用できる通常の表機能に加えて、AutoSuggest 表ではダブルクリックして推奨を承認または拒否することができます。推奨をダブルクリックするとセルがピンク色で強調表示され、属性が拒否されたことを示します。

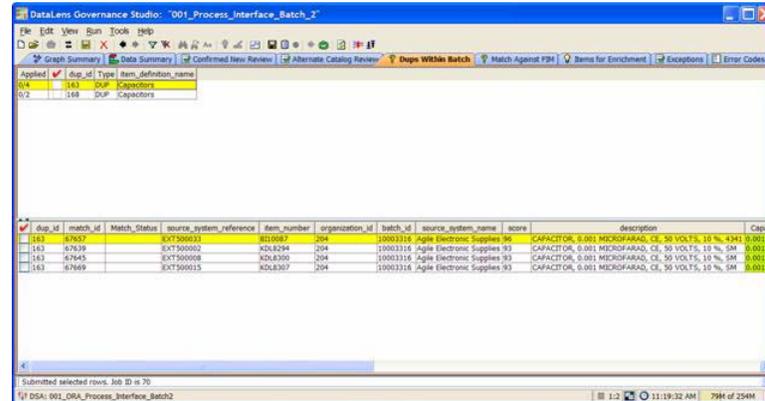
適切でない推奨を拒否して適切な推奨を保持し、データを追加する（補完する）セルを編集して推奨のレビューが完了したら、行をクリックして「Re-Run」をクリックすると再処理する行を選択できます。補完した項目は標準のプロセスに従い、出力に応じてタブに移動します（たとえば、補完が十分な場合には品質が十分であるものとして「Exceptions」タブに表示されます）。

1. Governance Studio で「Items for Enrichment」タブを選択します。
2. この項で前述したように、プロセスを選択します。
3. 「Re-Run」ボタンをクリックして、選択した行を処理します。

4. 補充した行が他のタブに表示されることを確認します。品質基準と完全性を満たしている場合には「Exceptions」タブに表示され、それ以外の場合には「Items for Enrichment」タブまたは「Match Against PIM」タブに表示されます。

バッチ内での重複のレビュー

Governance Studio の「Dups Within Batch」タブでは、画面分割の機能を使用してレコード・グループ（行）のセットを上部ペインに表示します。これはインポート・バッチ内での重複とみなされます。上部ペインの行を選択すると、その行に対応して一致する候補が下部ペインに表示されます。



重複した行が下部ペインに表示されます。また、照合に関係するキー属性を強調表示するためにデータ・スチュワード・カラー・コーディングが示されます。属性は、属性に対してトリガーされた照合ルールのタイプに基づいて色付けられます。カラー・コーディングの内訳は次のとおりです。

- **緑色の属性:** 親の行に一致し、項目固有の照合ルールでは必須と設定された属性であることを表します。
- **青色の属性:** 親の行に一致し、項目固有の照合ルールでは関与するが必須ではないと設定された属性であることを表します。
- **空白で強調表示なし:** 照合された行に特定の属性の値が含まれなかったため、その属性が照合スコアに関与しないことを表します。
- **データがあり強調表示なし:** 照合された行にその属性の値は含まれているが、照合された行の属性値が親の行の属性値に一致しなかったことを表します。

下部の子ペイン・ビューでは、単一の上書き行を選択するか、あるいは他の行からの値を持つプライマリ行を選択して複合値（混合）を作成することができます。このサバイバーシップ・プロセスで最終的に、1つの行または値のセットを表す複合行がマスター・レコードとしてシステムに入力されます。マスター・レコードを作成するには、次の手順を使用する必要があります。

1. 行を右クリックして上書き行を選択し、「Create Override Row」を選択します。選択すると、次のようになります。
 - a. 上書き行がオレンジ色になり、新しいマスター行がセットの最下部に、「MO」(Manual Override) の「Match Status」として赤で表示されます。上書き行のチェック・ボックスが選択され、無効になります。
 - b. 他の行はすべて自動的に選択されますが、チェックを解除して処理から除外することができます。

| dup_id | match_id | Match_Status | source_system_reference | item_number | organization_id | batch_id | source_system_name | score | description | Capac |
|--------|----------|--------------|-------------------------|-------------|-----------------|----------|------------------------------|-------|-------------------------------------------------------|-------|
| 163 | 67637 | | EXT500023 | 811097 | 204 | 1000318 | Agile Electronic Supplies 96 | | CAPACITOR, 0.001 MICROFARAD, CE, 50 VOLTS, 10 %, 4341 | 0.001 |
| 163 | 67639 | | EXT500002 | KDL8294 | 204 | 1000318 | Agile Electronic Supplies 93 | | CAPACITOR, 0.001 MICROFARAD, CE, 50 VOLTS, 10 %, SM | 0.001 |
| 163 | 67645 | | EXT500008 | KDL8300 | 204 | 1000318 | Agile Electronic Supplies 93 | | CAPACITOR, 0.001 MICROFARAD, CE, 50 VOLTS, 10 %, SM | 0.001 |
| 163 | 67649 | | EXT500015 | KDL8307 | 204 | 1000318 | Agile Electronic Supplies 93 | | CAPACITOR, 0.001 MICROFARAD, CE, 50 VOLTS, 10 %, SM | 0.001 |
| 163 | 67637 | MO | EXT500023 | 811097 | 204 | 1000318 | Agile Electronic Supplies 96 | | CAPACITOR, 0.001 MICROFARAD, CE, 50 VOLTS, 10 %, 4341 | 0.001 |

2. オプションで、任意の他の行のセルを単独で右クリックし、任意のセルを右クリックして「Set Override Cell」を選択すると、上書きセルを作成することもできます。上書きセルが

オレンジ色になり、その行は（未選択だった場合）自動的に選択されて無効になり、元の上書き行のセルは選択解除されて元の色に戻ります。最後に、マスター行に値が表示されます。

注意： 値を入力する場合は、上書きセルとして選択する前に値を入力する必要があります。そうしないと、マスター行で変更が反映されません。

| Capacitance | Dielectric | Voltage | Tolerance1 | Capacitor_package_size |
|-------------|------------|---------|------------|------------------------|
| 0.001 uF | CE | 50 VLT | 10 % | 4341 |
| 0.001 uF | CE | 50 VLT | 20 % | |
| 0.001 uF | CE | 50 VLT | 10 % | |
| 0.001 uF | CE | 50 VLT | 10 % | |
| 0.001 uF | CE | 50 VLT | 20 % | 4341 |

オレンジ色で強調表示されたセルを右クリックし、「**Set Override Cell**」オプションを使用して別のセルを選択して上書きセルの選択を変更することもできます。混合レコードを作成するために選択できる上書きセルの数に制限はありません。上書きセルを削除するには、赤い行のセルを右クリックして「**Set Override Cell**」を選択します。任意の行を右クリックして「**Remove Override Row**」を選択し、上書き行を削除することもできます。「**Remove Override Row**」を選択すると、重複セットの全体がリセットされてセットが元の状態に戻ります。

選択プロセスが終了したら、「**Re-Run**」ボタンをクリックして行を再処理します。

予測される結果

上書き行（オレンジ / 赤の行）は新しい行として再処理され、結果的にいずれかのタブに移動しますが、「**Enrich**」タブや「**Exception**」タブに移動する可能性はほとんどありません。重複排除プロセスに関与するには、**QI** がしきい値を超える必要があるからです。セットで選択された他の行は、「**Match Status**」をユーザーが変更しないため、「**Match Status**」を「**Ignore**」としてインタフェース表で更新する必要があります。

一致ステータスを入力して行を再処理に送ることで、システムを上書きすることも可能です。これは次のいずれかになります。

- **Confirmed New:** 情報のレビュー後、システムでは重複とみなされても重複ではないと判定することができます。行は、新しい項目として PIM に含められます。
- **Unconfirmed:** (デフォルト値) 項目をインポートするためには一致ステータスを確認する必要があります。
- **Ignore / Blank:** この項目を一時的にインポートから保留します。次に同じ項目データがバッチでアップロードされると、そのバッチの「**Excluded**」タブに表示されます。
- **Exclude:** 行は新しい行として PIM に含められず、除外領域に移動されるため、同じ項目データ行がロードされると自動的に「**Excluded**」タブに移動します。
- **Reprocess:** 行を再処理し、重複として削除できるようにデータを更新できます。

選択プロセスが終了したら、「**Re-Run**」ボタンをクリックして行を処理します。PIM のデータが実際に補完されるのは、「**Match Status**」として「**Confirmed New**」を選択したときのみです。補完した他の行（たとえば、未選択、選択済、空白を含む照合タイプ）はすべて無視されます。

次の処理ステップを使用します。

1. Governance Studio で「**Dups Within Batch**」タブを選択します。
2. この項で前述したように、プロセスを選択します。
3. 「**Re-run**」をクリックして、選択した行を処理します。
4. 重複処理の場合、上書き行が「**Process Interface Batch**」タブのいずれかに表示されることを確認します。品質基準と完全性を満たしている場合には「**Confirmed New Review**」タブに表示され、それ以外の場合には「**Enrichment**」タブまたは「**Match Against PIM**」タブに表示されます。

5. 上書き処理の場合、処理が完了したら「Release Batch」プロセスを実行してバッチ・ステータスを「Pending」から「Active」にリセットし、このプロセス中に行った変更をレビューして確定します。ジョブは、バッチ ID を入力として使用します。
6. Oracle Item Import Workbench でバッチに戻り、選択した行に対してデータが正しく設定されていることを確認します（バッチがレビューのために「Active」に戻されているとします）。
 - a. バッチを検索します。
 - b. 「Update」を選択してバッチをレビューします。
 - c. 「Display Format」リストから（たとえば「SemanticModel (Capacitors)」を）選択し、「Go」をクリックします。
 - d. 「Apply」を選択します。
 - e. 「Previous」と「Next」のボタンを使用して、項目の精度をレビューします。

Process Interface Batch Governance Studio ジョブのタブの 1 つに、または Oracle バッチにおいて正しいステータスで上書きされた行に対して、上書き行が存在します。

「Match Against PIM」のレビュー

Governance Studio の「Match Against PIM」タブでは、画面分割の機能を使用して、Product Data Hub のレコードと機能的に等価（重複）の新規レコードから、レコード・グループ（行）のセットを上部ペインに表示します。こうすることによって、新規レコードを既存の Product Data Hub レコードに対する相互参照として識別することができます。上部ペインで行を選択すると、その行に対応して一致する候補が下部ペインで強調表示されます。下部ペインでは、相互参照の優先一致である行を選択します。

| ITUS | Item Category | Match Status | Batch ID | Source System Name | Organization ID | Source System Description | Capacity |
|------|-----------------------|--------------|----------|-------------------------------|-----------------|---------------------------------------------------|------------|
| 01 | 97638 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | CAP,CE,220PF,50V,20%,SM,1206 | 0.00022 uF |
| 02 | 97641 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | CAP,CE,1000PF,50V,20%,SM | 0.001 uF |
| 02 | 97642 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | CAP,CE,1000PF,50V,20%,C,CASE | 10 uF |
| 04 | 97648 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | Capacitor,TA,10uF,10V,10%,SM,281A,D,CASE | 10 uF |
| 05 | 97649 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | Capacitor,AL,22 uF,10V,1%,SM,282J,12.5mmDx13.5mmL | 22.5 uF |
| 05 | 97650 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | Capacitor,AL,22 uF,10V,1%,SM,282J,12.5mmDx13.5mmL | 22.5 uF |
| 02 | 97651 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | Capacitor,CE,4.7 uF,10V,10%,SM,1206 | 4.7 uF |
| 01 | 97652 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | Capacitor,TA,10uF,10V,10%,SM,1206,A,CASE | 10 uF |
| 01 | 97664 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | Capacitor,470F,10V,10%,TA,90C | 0.00047 uF |
| 01 | 97666 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | CAP,CE,1uF,100V,20%,SM,1812 | 0.1 uF |
| 01 | 97671 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | CAP,0603,CE,10.0 uF,50V,20%,X7R | 0.01 uF |
| 01 | 97673 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | CAP,CE,4.7 uF,10V,10%,SM,1206 | 4.7 uF |
| 01 | 97674 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | CAP,470PF,50V,AXIAL,CE,5% | 0.00047 uF |
| 01 | 97675 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | CAP,22uF,1A,20V,10% | 22 uF |
| 03 | 97676 XREP Capacitors | CC | 10003316 | Agile Electronic Supplies 204 | 204 | Capacitor,TA,33uF,10V,10%,SM,2816,D,CASE | 33 uF |

| ITUS | Match Score | SKU | PIM Description | Capacity | Delete |
|-------|-------------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|--------|
| 97650 | 9995 | 94 | V10088 CAPACITOR, 17.5 MICROFARAD, AL, 10 VOLTS, 2 %, 185K, 18MMX13MM, X7R, 50 C, 115 C, LOWZ, 13100000 OHM, RD | 17.5 uF | AL |
| 97650 | 10749 | 94 | V10046 CAPACITOR, 17.5 MICROFARAD, AL, 10 VOLTS, 2 %, 4141, 18.5MMX13MM, X7R, 50 C, 105 C, LOWZ, 12550000 OHM, SM | 17.5 uF | AL |
| 97650 | 10762 | 94 | V10057 CAPACITOR, 17.5 MICROFARAD, AL, 10 VOLTS, 2 %, 305, 22MMX12MM, X7R, 55 C, 110 C, LOWZ, 12550000 OHM, RD | 17.5 uF | AL |

一致する行が下部ペインに表示されます。また、照合に関するキー属性を強調表示するためにデータ・スチュワード・カラー・コーディングが示されます。属性は、属性に対してトリガーされた照合ルールに基づいて色付けられます。カラー・コーディングの内訳は次のとおりです。

- **緑色の属性:** 親の行に一致し、項目固有の照合ルールでは必須と設定された属性であることを表します。
- **青色の属性:** 親の行に一致し、項目固有の照合ルールでは関与するが必須ではないと設定された属性であることを表します。
- **空白で強調表示なし:** 照合された行に特定の属性の値が含まれなかったため、その属性が照合スコアに関与しないことを表します。
- **データがあり強調表示なし:** 照合された行にその属性の値は含まれているが、照合された行の属性値が親の行の属性値に一致しなかったことを表します。

上部ペインで行を選択すると、下部ペインで候補の行のセットが示され、相互参照の行が作成されます。相互参照の行を選択すると、相互参照の行を Oracle Interface 表に送信できます。

注意： 相互参照には、ITUI (Interface Table Unique) ID と Match_Id の関係が利用されます。「Match Status」は「Confirmed Match」に設定され、PIM の既存項目に対する相互参照であることを示します。

「PIMDH Item」フィールドに PIMDH 項目番号 (たとえば、VI10585) が自動的に入力され、確認ステータスが「CM」(照合確認済) に設定されます。

選択プロセスが終了したら、「Re-Run」ボタンをクリックして行を処理します。

バッチに相互参照が表示されます。

注意： 相互参照行はリストから削除されるので、確認するには Oracle バッチをレビューする方法しかありません。

「Exceptions」のレビュー

Governance Studio の「Exceptions」タブには、認識されなかった (品質しきい値を満たさなかった) 項目が表示されます。説明をレビューまたは編集し、項目に対する処理方法を決定できます。

1. Governance Studio で「Exceptions」タブを選択します。
2. 次の選択セットから「Match Status」を選択します。

| | |
|---------------|--------------------------------|
| IGNORE | 行を無視 |
| EXCLUDE | 行を除外 |
| CONFIRMED NEW | 新しい行を確認 (PIM への許可) |
| UNCONFIRMED | Oracle バッチで手動でレビューする必要がある未確認の行 |
| REPROCESS | 行を再処理 |

3. 「Re-Run」ボタンをクリックして、選択した行を処理します。
4. 行が、正しいステータスで「Process Interface Batch」タブに、あるいは再処理した場合には「Process Interface Batch」タブのいずれかに表示されることを確認します。品質基準と完全性を満たしている場合には「Confirmed New Review」タブに表示され、それ以外の場合には「Items for Enrichment」タブまたは「Match Against PIM」タブに表示されません。

「Ready for Load」のレビュー

Governance Studio の「Ready for Load」タブでは、完全に標準化されて補完され、品質要件を満たしてインポート準備のできたレコードが表示され、インタフェース表 (バッチ) プロセスを通じて PIM に移動されます。

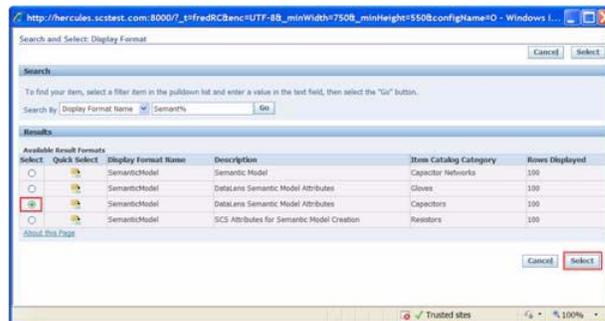
他のタブですべての項目のレビューと処理が終わったら、合計をゼロにすると、残りが「Confirmed New Review」タブに表示されます。1 つ以上の行を選択してプロセスを完了すると、標準化された高品質データのセットで Interface Batch が更新され、このときバッチ ID と ITUI (Interface Table Unique Id) が次のようにキーとして使用されます。

1. Governance Studio で「Ready for Load」タブを選択します。
2. タブで 1 つからすべての行を選択して有効にします。

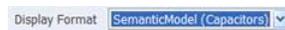
| | interface_table_unique_id | organization_id | source_syste |
|---|---------------------------|-----------------|-----------------|
| ✓ | 67643 | 204 | Agile Electroni |
| ✓ | 67644 | 204 | Agile Electroni |
| ✓ | 67647 | 204 | Agile Electroni |
| ✓ | 67656 | 204 | Agile Electroni |
| ✓ | 67663 | 204 | Agile Electroni |
| ✓ | 67665 | 204 | Agile Electroni |
| ✓ | 67670 | 204 | Agile Electroni |

3. 「Apply Checked Rows」 ボタンをクリックして、選択した行を処理します。
 選択した行は青色になり、その行が処理済でそれ以上の処理はできないことを示します。
4. 処理が完了したら「Release Batch」プロセスを実行してバッチ・ステータスを「Pending」から「Active」にリセットし、このプロセス中に行った変更をレビューして確定します。
 ジョブは、バッチ ID を入力として使用します。
5. Oracle Item Import Workbench でバッチに戻り、選択した行に対してデータが正しく設定されていることを確認します（バッチがレビューのために「Active」に戻されているとします）。
 - a. バッチを検索します。
 - b. 「Update」を選択してバッチをレビューします。
 - c. 「Display Format」リストから（たとえば「SemanticModel (Capacitors)」を）選択します。

注意： 存在しない場合は、「More」を選択して「SemanticModel」を検索します。正しい「SemanticModel」を選択し（複数が存在する場合）、「Select」を押します。



次のようにリストに表示されます。



6. 「Go」をクリックして適用します。



7. 「Previous」または「Next」を選択して、項目が適切かどうかを確認します。



Oracle Interface 表で、Governance Studio ジョブから選択した行に、標準化された項目が置き換わります。

「Release Batch」のレビュー

Governance Studio の「**Release Batch**」タブでは、Oracle バッチでレビューとインポートが可能になるように、バッチを「**Pending**」から「**Active**」にリセットすることができます。また、現在の Governance Studio ジョブを非アクティブにして内容を保存し、変更を防ぎます。

1. Governance Studio で「**Release Batch**」タブを選択します。
2. 行をクリックします。
3. 「**ReRun**」ボタンをクリックして、選択した行を処理します。

Governance Studio で現在のバッチが完了し、プロジェクトが読取り専用になって（インタフェース機能のほとんどを無効にして）、「**Pending**」から「**Active**」に設定します。

バッチを再度アクティブにするには、「**File**」メニューから「**New Project From**」を選択して再オープンし、バージョン番号とバッチ番号を入力に使用して処理します。

クライアント・ソフトウェアのインストール

Enterprise DQ for Product は Java Web Start を使用して、最初に現行バージョンのソフトウェアをクライアント・デスクトップにインストールし、保守します。その過程で、ユーザーは Oracle DataLens Server にアクセスして接続を開始し、ソフトウェアをダウンロードする必要があります。

Java Web Start を使用して Enterprise DQ for Product クライアント・アプリケーションをダウンロードおよびインストールするには、次の手順に従って Oracle DataLens Server のインストール・ページを参照します。

1. Java SE Runtime Environment (JRE) 6 Update 21 がインストールされていることを確認します。JRE をダウンロードしてインストールの指示を入手するには、次の URL にアクセスします。

<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html>

2. Microsoft Internet Explorer を起動します。

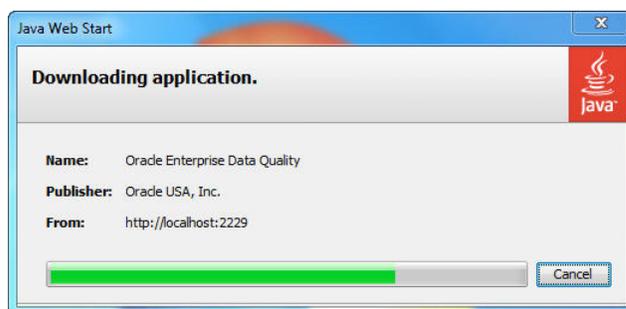
3. 接続を開始し、次の URL にアクセスしてクライアント・ソフトウェアをダウンロードします。

`http://server:2229/datalens/datalens.`

`server` は、Oracle DataLens Server のホスト名です。

注意： アプリケーション・サーバーに 2229 以外のポート番号を設定している場合は、Oracle DataLens Server にアクセスしてクライアント・アプリケーションをダウンロードする際、次の URL でそのポート番号を使用する必要があります。

アプリケーションがダウンロードされ、検証が開始されます。



注意： .ファイルがプログラムに関連付けられていないことを示す**ファイル・ダウンロード・メッセージ**が表示された場合は、サポートされているJREがインストールされていません。「**Cancel**」をクリックしてステップ1に戻ります。

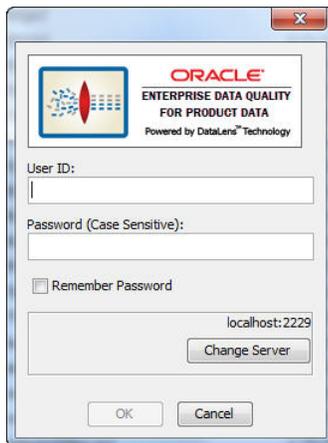
検証が完了すると、インストールが開始されます。Enterprise DQ for Product ファイルは信頼できるソースによってデジタル署名されているため、次のセキュリティ警告が表示されます。



ヒント： このセキュリティ・ダイアログが今後表示されないようにするには、「**Always trust content from this publisher**」チェック・ボックスを選択します。

4. 「**Run**」をクリックしてインストールを完了します。

Oracle Enterprise Data Quality for Product Data のログイン・ダイアログが表示されます。



R12 PIM Connector ユーザーの作成

この付録では、Enterprise DQ for Product クライアント・アプリケーションと R12 PIM Connector バッチ処理で使用する EBS の R12 PIM Connector ユーザーを作成する方法について、基本的な概要を示します。

必要なロールとユーザーを設定し、プロファイル・オプションを EBS で更新するプロセスは、次のとおりです。

- 2つの新しいロールを作成します。1つは DLSUSER が使用するロール、もう1つは DLSMANAGER が使用するロールです。この2つの新しいロールは、ユーザー名と同じ名前でもかまいません。
- 2つの新しいロールそれぞれに必要な権限を追加します。
- 新しい2つのユーザー DLSUSER と DLSMANAGER を作成し、前述のロールを適宜これらのユーザーに割り当てます。

必要なロールとユーザーを EBS で作成します。

1. システム管理者として EBS にログインします。
2. 「System Administrator」をクリックします。
3. dlsuser および dlsmanager という名前で2つの新しいロールを作成し、次の権限を付与します。
 - Add/Delete Approved Manufacturer Parts Item
 - Add/Delete Customer Item Cross References
 - Add/Delete Item Cross References
 - Add/Delete Related Items
 - Add/Update Item Revision
 - Change Item Status
 - Create Item Supplier Assignment
 - Create/Edit Item Organization Assignments
 - Edit Item
 - Edit Item Catalog Assignments
 - Edit Key Metrics
 - Edit Source System Item Cross Reference
 - View Approved Manufacturer Parts Item
 - View Customer Item Cross References
 - View Item
 - View Item/Item revision lifecycle

-
- View Item Catalog Assignments
 - View Item Cross References
 - View Item Organization Assignments
 - View Item Revision List
 - View Item Supplier Assignment
 - View Key Metrics
 - View Related Items
4. 次の 2 つの必須ユーザーを作成します。
 - `dlsuser: Enterprise DQ for Product R12 PIM Connector` によって作成されるバッチに割り当てられるユーザー
 - `dlsmanager: Enterprise DQ for Product R12 PIM Connector` でバッチを作成するユーザー
 5. これらの新規ユーザーそれぞれに、ステップ 2 で作成したロール `dlsuser` と `dlsmanager` を使用する職責を割り当てます。
 6. 使用する組織に各ユーザーを割り当てます。たとえば、`Vision Operations` です。
 7. 「Item Author」という新しいロールをすべてのユーザーの組織に追加して、相互参照権限を追加します。
 8. デフォルトでは、`DLS_PIMMGR_USER` と `DLS_EGO_IMPORT_BATCH_ASSIGNEE` のプロファイル・オプションがユーザー `operations` に割り当てられます。`dlsuser` および `dlsmanager` をそれぞれ使用するように、これらのオプションを変更します。